

ま え が き

この報告書をもって、図書館自己点検・評価委員会の活動が所期の目的を達成するに至りましたのは、2年間（平成16-17年度）にわたってご尽力いただいた委員各位のお蔭であり、さらにこの活動に必要な素材の提供など図書館職員による協力が側面からあったことによるものです。先ずもって関係者に謝意を表しておきたいと思えます。

今期の前半期においては、関西大学自己点検・評価委員会により進められてきました「平成18年度大学基準協会相互評価及び認証評価申請」にかかわる報告書作成において、図書館に関する部分を担当してきました。つづく後半期では、図書館自身が意図する点検・評価を行っております。

今回はその図書館自身の活動の視点を「図書館資料の有効利用」に置いて、図書館サービスおよび諸活動を検証し「平成17年度報告書」にとりまとめました。関西大学図書館自己点検・評価委員会規程に則しまして図書委員会に報告するとともに、『関西大学図書館フォーラム』に掲載して公表することにいたします。大方のご意見やご教示をいただき、本学図書館の理念・目標の具現化を確かなものにしていく所存であります。

今後とも、本学の教職員はもとより学外の多くの皆さん方のご支援並びにご協力をお願いいたします。

平成18年 3月31日

関西大学図書館自己点検・評価委員会
委員長 田 中 登

I 平成17年度自己点検・評価の報告

— 図書館資料の有効利用 —

はじめに

関西大学図書館自己点検・評価委員会規程が平成6年1月に制定され、準備期間を経て当委員会は平成7年度から具体的な点検・評価活動を開始している。委員会発足当初から2・3年に1度報告書を作成することとしており、今回の報告書は第5回目にあたる。これを図書委員会に報告するとともに、「平成17年度報告書」として『関西大学図書館フォーラム』第11号に掲載し公表するものである。

今期(平成16-17年度)は、視点を「**図書館資料の有効利用**」に置いて点検・評価をしてきた。ちなみに、過去4回の各々の活動はどのような視点で行ったのかを見てみると、下の表1のとおりである。

本報告書Ⅱ「自己点検・評価関係資料」の部分(以下、「**関係資料**」と記載する。)については、毎年度作成しており、『図書館フォーラム』に掲載してきている。

表1 過去の活動の視点

平成6年度	図書館のすべての実像を明らかにするために、自己点検項目を設定。
平成7年度	設定した全項目について、第1回目の点検・評価を行い、すべての実像を概観。
平成9年度	「利用・サービス」に焦点をあわせて、点検・評価を行う。
平成12年度	「図書館のビジョンとその具現化」が視点。
平成15年度	「利用サービスと諸環境の整備」を視点に。

なお、今期の当委員会は、図書館のこの活動と同時並行して、大学の自己点検・評価活動のうち図書館の部分を担当して進めてきた。すなわち、関西大学自己点検・評価委員会が、平成18年度の大学基準協会相互評価および認証評価の申請に向けて、大学総体の「自己点検・評価報告書」と「大学評価(加盟判定審査・相互評価)大学基礎データ」とを作成されるにあたり、同報告書の第8章「図書館および図書・電子媒体等」についての原稿(23ページ分)を執筆し、同基礎データの3つの表を作成してきた。

そのため、図書館のこの報告書の内容は、大学の

報告書の一部と若干重複する箇所がある。

1 大学の使命と図書館の基本理念

本学の図書館活動における基本方針は、昭和56年3月23日図書館建設実行委員会が学長に答申した「新図書館建設計画案(答申その2)」に遡ることができる。同答申のなかに明示されている「新図書館の性格」すなわち運営の基本方針は、「全学系(人文科学系、社会科学系、自然科学系)の研究図書館機能と学習図書館機能を総合兼備し、学術情報のセンター機能を果たす」ものとして全学的に位置づけられている。これに従って、総合図書館が建設され昭和60年4月に開館したのである。

その後、情報通信技術の急速な進展は、情報メディアのデジタル化とインターネットの普及を加速させた。いわゆる「知」の創造と伝達の方法において、大学を取り巻く環境は大きく変化したのである。このような状況変化に対応して、本学は「教育」「研究」および「社会貢献」を課せられた使命として位置づけている。

この大学の使命をうけて、本学図書館は、関西大学学則第65条および関西大学図書館規程第2条に規定しているとおり、「図書館は、学術情報の中枢機能を担い、大学が教育及び研究を促進するのに必要な資料を収集、整理、保存及び提供することを目的とする」という基本理念の具現化をめざしてきた。

平成10年12月に策定した「関西大学図書館がめざす方向—ビジョン7項目—」(前回平成12年度の当委員会報告に詳述)は、すなわち、大学の理念に基づき図書館の基本理念を具現化するための目標である。このビジョンに則して、個々の施策を設定し、図書館サービスの充実に努めているのである。

以下、本学図書館が理念・目標に関わり、特に図書館資料の収集と利用について、どのような展開をしているのか、現状、課題および改善方策等について検証する。

2 関西大学図書館の近況

本学は明治19年に創立し、同37年江戸堀校舎に図書室を創設している。大正3年には初の独立した図書館を福島学舎に開設した。本年度平成17年は、江戸堀校舎の図書室創設から丁度100年を数えている。

千里山本館、天六分館、専門図書館など旧館の時代を経て、今日の総合図書館および高槻図書室がある。総合図書館および高槻図書室は建物の名称であり、双方をあわせて「関西大学図書館」の名称で大学に組織されている。

現在200万冊を超える蔵書を有し、文献情報データベースや電子ジャーナルの積極的な導入ならびに学外の大学図書館等との相互利用等により、関西大学における教育・研究の学術情報の中枢機能を担っているのである。

総合図書館は、基本構想であるCenter of gravity of populationのとおり、千里山キャンパスに設置されている6学部・1機構・大学院8研究科のそれぞれからほぼ等距離、すなわち中央に位置する。高槻図書室は高槻キャンパスにあり、千里山キャンパスとネットワークで接続されている。

前者の総床面積は21,749.93㎡、蔵書は約196.5冊、後者は1,013.24㎡、約6.1万冊であり、その詳細は表2のとおりである。両者の定期刊行物の収蔵種類数は25,700タイトル（うち継続受け入れ中のものは5,800タイトル）、マイクロフィルム・マイクロフィッシュの所蔵点数は105,000巻（箱）で、電子ジャーナルの閲覧可能種類数はBlackwell Synergy、Elsevier Science Direct、IEEE、Oxford University Press、Springer、Wiley InterScienceなどとライセンス契約している10,030タイトルである。外部デー

タベースも定額制のライセンスを得て、世界有数のデータ量を誇るWeb of ScienceやSciFinder Scholarなど30数種をキャンパス内のネットワークから自由に利用できる。これらに充当する年間の図書館資料購入費予算額は、約671,900,000円であり、過去5年間の各年度図書費執行額は本報告書の「関係資料」(3)(4)に記載しているとおり推移してきた。

本学は、国立大学等で見えるような学部図書館（分散）方式に属さず、伝統的に集中方式を採用し、その特質を生かして、多岐にわたる分野の学術情報を体系的に整備し、情報ネットワークを利用した「サービス主導型の図書館」として「学術情報提供サービスの充実」を重点目標に掲げて取り組んでいる。

この重点目標の具体施策の一例とし、図書館のホームページを中軸にした「電子カウンター機能の拡充」をあげることができる。Web版の蔵書検索システムOPAC（Online Public Access Catalogueで、愛称はKOALA）を平成10年に公開することによって、学内にとどまらず、「いつでも」「どこでも」「だれでも」が利用できる関西大学図書館蔵書検索サービスを提供している。大学図書館または公立図書館間の相互利用サービスを通じて、他大学および一般社会のかたがたの利用に供している。

学内の利用者には、現在、オンラインによる「予約・取寄」「相互利用（学外への複写・借用依頼申込）処理状況照会」「利用状況照会」等のリクエストを本学の学生や教育職員の自宅から可能にするシステムの提供を実現している。

このように本学図書館は教育・研究支援をめざして、

- (1) 学術情報を収集、整理、保存および提供するという図書館の基本的な使命を継承し、

表2 図書館資料の所蔵数

(大学基準協会様式・表41。ただし、平成17年度末現在)

	図書の冊数（冊）		定期刊行物の種類数		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類数
	図書の冊数	開架図書の冊数(内数)	内国書	外国書		
総合図書館	1,965,796	254,699	14,803 (3,038)	10,456 (2,387)	109,976	10,030
高槻図書室	61,404	61,404	242 (209)	258 (180)	227	—
計	2,027,200	316,103	15,045 (3,247)	10,714 (2,567)	110,203	10,030

- 【注】 1 製本した雑誌等逐次刊行物は図書の冊数に加えている。
 2 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュが大半を占め、カセットテープ、ビデオテープを含む。
 3 定期刊行物の種類数には電子ジャーナルの一部を含んでいる。下段の（ ）の数は継続して受け入れている種類数で、内数である。電子ジャーナルの種類数は、延べ数である。
 なお、学内で閲覧できる電子ジャーナルの版元別による内容については、本報告書の「関係資料」(2)iに記載している。

(2) 情報インフラストラクチャーを整備して変革するとともに、

(3) 図書館間の有機的な連携を図ることに主眼を置いて、運営してきた。

また、授業における予習、復習、ゼミナール等演習のための調査研究に資するために、アウトソーシングを導入することによって、日曜・祝日の開館および夜間の開館時間を延長（授業期間は22時まで）するなど積極的な利用サービスの拡大を図って、学習・研究支援の充実に努めている。

3 Access か Holding か

本学図書館の蔵書は、昭和55年に100万冊を超えており、平成12年度末には180万冊を超えていた。書庫等収蔵容積が狭隘化していくため、近年複本の除却、デジタル化資料への置換などに努め蔵書のスリム化を図ってきているものの、現在、図書館の蔵書は総合図書館と高槻図書室合せて、200万冊余りにのぼっている。過去5年間の図書館資料の受入数における推移は、表3のとおりである。大学全体の経費が厳しくなる中で本学も例外ではない。幸い図書館図書費の平成17年度については減額はないものの、据え置かれている。

これがために、今後将来は全学で有効に共用できるように促進していく一方、図書資料の電子情報化などをさらに推し進めていくことができるように意

表3 過去5年間の図書の受入数 (単位：冊)

	平成13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
総合図書館	52,130	49,667	67,188	59,147	53,429
高槻図書室	3,478	3,520	3,671	3,317	3,798
計	55,608	53,187	70,859	62,464	57,227

(大学基準協会様式・表42)

図しているものである。以下この項では、図書館資料を中心に図書館サービスの活動を点検する。

ア 教育・研究支援と図書の体系的整備

図書館の蔵書は、NDC主綱表(10区分)により集計した前掲の表4でみるように、本学に設置された各学部・研究科の教育および研究分野を広く網羅する状況で収集している。

この収書にあたっては、教育・研究を支援する最も基本的な図書または高額な図書については図書委員会の議を経て収書しており、教育職員からの希望図書または推薦図書、シラバスに記載の参考書、および大学院学生・学部学生からの希望図書についても収集している。

ちなみに、シラバス(平成16年度以降については冊子版をWeb化)に担当教育職員が記載している参考書は、入手可能なものは全て図書館(大部分を開架閲覧室)に備え付けることになっている。また、同Webシラバスにおいて各授業科目画面の「参考書」欄から直にKOALAが利用でき、学生自ら図書館の

表4 NDC分類区分による蔵書冊数および雑誌種類数

NDC分類	種 類	蔵書冊数	蔵 書 の 内 訳		雑誌種類数	雑 誌 の 内 訳	
			和書(冊)	洋書(冊)		和(種)	洋(種)
0類	総記	210,522	143,492	67,030	5,554	4,601	953
1類	哲学	118,714	66,078	52,636	1,074	447	627
2類	歴史	175,162	128,886	46,276	1,202	829	373
3類	社会科学	587,020	302,322	284,698	7,557	3,623	3,934
4類	自然科学	133,071	59,905	73,166	2,302	659	1,643
5類	技術・工学・工業	175,379	97,641	77,738	3,509	1,634	1,875
6類	産 業	73,447	46,770	26,677	1,055	653	402
7類	芸 術	71,526	57,435	14,091	846	708	138
8類	言 語	62,814	31,130	31,684	540	248	292
9類	文 学	216,587	143,758	72,829	2,105	1,634	471
小 計		1,824,242	1,077,417	746,825	25,744	15,036	10,708
そ の 他		202,958	-	-	15	9	6
合 計		2,027,200	-	-	25,759	15,045	10,714

【注】 1 NDC: Nippon Decimal Classification(日本十進分類法)の略。「その他」とは、個人文庫等でNDC分類を付与していない資料を示す。100区分(「類」+「項」)による蔵書冊については、Ⅱの「関係資料」(3)②を参照のこと。

2 雑誌については、重複するタイトルをカウントしていない。

蔵書を容易に検索できるように配慮している。

有用な図書館資料を厳選していくということは、図書館資料の有効利用の第一の課題である。蔵書を構成していくには、最も必要な資源を最初に収集し、つまり、学術雑誌でいえばコア・ジャーナルをまず入手して、あとは順次ニーズの度合いが強いものから度合いが低いものへ手がけていくのが普通である。永田治樹によれば、雑誌について「たとえば、300タイトルあれば利用要求の90%の要求を満たせるが、95%を満たすには700タイトル必要となり、水準を98%に上げると、2000タイトルも必要となるという事実を考慮すると、情報源の効用は順次低くなるのであり、必要な情報源がすべて一様な効用をもっているわけではない。つまり、“追加される1タイトルの購入に要する費用に対して、それが利用される量は漸次下がっていく”という、いわば“収穫逓減の法則”がこの場合にも当てはまる」(『学術情報と図書館』平成9年、丸善刊)のである。

ただし、図書館は従前から、自館に今後とも所蔵しないか、もしくは現に所蔵していない図書や文献資料であっても、利用者の求めに応じて、「相互利用」のシステムにより学外の所蔵機関に文献の複写や図書の貸出しを依頼してきた。従って、学術文献の二次情報(索引、抄録等データベース)を十全に提供することが大前提ではあるが、学内での研究活動や教育および学習が活発なほど、学外の所蔵機関に依頼することが多くなるのである。表5でみるように本学の傾向もそれを明示している。

また、文献・情報データベースや電子ジャーナルの積極的な導入、すなわちデジタル化資料への置換を図り、いわゆる外部情報源へのアクセス環境をととのえていくと、必然に“AccessかHoldingか”という第二の課題に直面する。

Accessとは通常デジタル化された資料への接続利用を指すことが多い。これの積極的利用および相互

利用の促進を図っていくか、もしくは所蔵・保存を考慮していくか、言い換えれば、“所蔵していくか外部化するか”ということになる。

本学図書館では“所蔵していくか外部化するか”に関しは、かねてより次の基本姿勢で臨んできた。

1 所蔵することについて

- ①図書館図書費予算の効率的配分を基本とし、
- ②図書館資料を厳選して収集していく。
- ③また、雑誌オリジナルの所蔵に関しては、利用者ニーズの調査を実施して厳選し、電子ジャーナルへの転換を図るか、購読を中止してしまい、必要になった場合には外部所蔵機関の相互協力による利用に委ねる。

2 外部(化)利用について

- ①アーカイブ保障をすることを大前提に、
- ②一方では、ライセンス契約を積極的に締結して外部データベースや電子ジャーナルの利用を拡大し、他方では相互協力の促進を図る。
- ③結果として、蔵書のスリム化を図れることになって、書庫狭隘化の対策にも資することにつながっている。

イ 本学図書館の学術資料

本学所蔵の図書館資料には、紙媒体である図書、雑誌、新聞、文書(もんじょ)、写本、摺物と、外部情報資源の有効利用を推進している電子ジャーナルやデータベース(電子媒体)、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、CD-ROM、DVDなど、さまざまな形態のメディアを有している。図書館の今後将来を考えると、大きく分けて2つの課題に直面していると言える。

その一つは、多様化するメディアの問題であり、もう一つは保存していく書庫が狭隘化していく問題である。例えば本学図書館では、大部な米国法資料の*National Reporter System*をWestlawに、化学最大の抄録誌*Chemical Abstracts*はSciFinder Scholarに、学術論文引用・被引用の索引*Citation Index*は世界でも有数のデータ蓄積を誇るWeb of Scienceに、それぞれ紙資料からデータベース化されたデジタル情報に置換しネットワーク情報源とのライセンス契約により学内に配信して利用に供している。これら膨大な原資料を除却したことによって、空いた書架はあとにつづく他の図書の配架スペースに譲っていけるのである。

表5 過去5年間の図書館間相互利用件数(国内・国外)

		平成13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
提供	閲覧	491	580	513	511	488
	貸出	297	372	410	302	632
	複写	3,472	3,715	3,494	2,491	4,319
依頼	閲覧	351	402	442	318	234
	借用	563	698	726	662	890
	複写	3,400	4,019	4,459	4,039	4,284

また、新聞は最も保存スペースの確保が難しい。あとで述べるように、大阪地区大学図書館における新聞の分担保存に関する協定（関西大学、大阪大学、大阪外国語大学、大阪府立大学、大阪市立大学、大阪経済大学が昭和44年協定）による11種の日刊紙については、『毎日新聞』と *Frankfurter Allgemeine Zeitung für Deutschland* の2紙を永久保存するほかは長期に保存せず、必要なものは縮刷版やマイクロフィルム版を備え付けて原紙を破棄している。他方で、本学図書館の保存と利用面からみると、本学の基本図書資料の一つでもある *New York Times* 等の新聞のように、原紙は数年間のみ保存し、つづいてマイクロフィルム版を確保して、CD-ROMによって補完するとともに、かつ索引をオンラインのデータベースを利用することによって、トータルに縦横の利用ができるという効果的な情報取得の方法も見えてきている。

(1) 図書

200万余冊の蔵書の中には、教育・研究支援のみならず、文化・文明を支える大学の使命として収集した特色あるコレクションがある。大阪に立地する大学として収集に努めてきた「大阪文芸資料コレクション」、わが国における魯迅研究第一人者の元本学教授に係るコレクション「増田渉文庫」、東洋学確立の内藤湖南とその子息伯健旧蔵の「内藤文庫」、幕末の浪速私学であった泊園書院旧蔵の「泊園文庫」、中国文学および漢籍書誌学を生涯の研究とした長澤規矩也旧蔵の「長澤文庫」、元本学図書館館長で日本近世文学の泰斗中村幸彦旧蔵書「中村幸彦文庫」ほか、種々のコレクションを有している。

本学は、これらユニークなコレクションについても、目録情報を遡及して作成し入力しており、OPACで公開できるよう努めている。特徴的なコレクションを、資料形態ごとに各数点を例示すると次のとおりである。

図書の類には、ヴェネツィアの大学でも特別コレクションにあげているダンテの著作集 *Opere di Dante Alighie*, 5 vols. (1757-1758) が「廣瀬文庫」にあり、米国 H. Wheaton 著の *Elements of International Law* を中国語に翻訳した『萬國公法』4巻（同治3年刊。前掲の「増田渉文庫」に蔵。わが国では明治3年に大学規則が制定されて、万国公法の科目開設と同時に教科書になっている）がある。坂本龍馬はこれを土佐で翻刻しようとしたという。

国書としては、嵯峨本『伊勢物語』（慶長刊版。

流麗な平仮名まじりの古活字版。極彩色の挿絵あり）と『萬葉集〈廣瀬本〉』などをあげることができる。延享刊版『伊勢物語』も蔵しており、双方を平成16年にデジタル画像化して、両者を比較できる形で全文を図書館ホームページの「電子展示室」から公開している。

一方、『萬葉集〈廣瀬本〉』は、万葉集の原形をよく伝えている非仙覚本で、唯一全巻が揃っている。同廣瀬本を影印版にして岩波書店から刊行され注目を集めている。

絵巻・浮世絵の類としてあげる『象之絵巻物』は、学外の美術館や博物館での展示に際し依頼にこたえて、10回に及ぶ出陳に供し公開してきた。江戸時代に象は享保13年、文化10年、文久3年に渡来している。本学の絵巻物は尾形探香（?~1868）筆のまさしく享保の象の絵巻である。卷子本（かんすほん）には、生田文庫に『和漢朗詠集』2巻（鎌倉時代写）などがある。

また、浮世絵では「長谷川貞信」コレクションをあげることができる。海外で“Osaka Prints”とよばれ珍重された上方文化研究第一級の資料。初代貞信（文政中期に活躍）および二代・三代貞信の作品600点を2002年にデジタル画像化して、やはりこれも図書館ホームページの「電子展示室」から公開している。

地図（マップ・アトラス）では、昭和60年の総合図書館開設以来、全部揃っている国土地理院の50,000分の1と25,000分の1の地形図、同院50,000分の1の地質図を備え付け、バックライト付き転写用トレース台2台を設備している。ほかに、中国大陸25,000分の1の地図帳、ドイツ、スイス、オーストリアの50,000分の1と25,000分の1の地図などを所蔵していて、地理学・地質学のみならず、経済・産業等社会科学、自然科学、防災や都市工学等工学技術など広汎な分野で利用されている。

マイクロ資料（マイクロフィルム・マイクロフィッシュ）約10万巻（箱）のうち大部な資料についていえば、文部科学省の私立大学等研究設備整備費等補助金を得て購入した、米国議会委員会刊行物総集成 *CIS Microfiche Library*、*The Eighteenth Century*（18世紀英語出版物コレクション）、日刊紙 *Le Monde*、明治期刊行物集成をあげておきたい。

これらは大学の理念を実現するに当たって収集、所蔵するものの一部に過ぎないが、多くの貴重な資料については特別閲覧、春季・秋季の展示公開、ホ

ームページを通じての電子展示による公開、および他の図書館や美術館等への展示出陳など、機会があるたびにその利用を社会へと拡大しており、社会貢献としての一端を担っていると言える。すなわち、本報告書6章のイに述べるとおり「図書館の公開」を検討するとともに、「関西大学図書館ビジョン7項目」の第4項にいう「蔵書のより有効な活用をめざす」ものである。

(2) 学術雑誌

教育・研究を支える学術雑誌についても、前掲表4に示す雑誌種類のNDC分類区分にみるとおり、多岐にわたる学問分野に対して所蔵してきていることが分かる。また、そのうち継続して受け入れている種類数は5,814タイトルである。過去のタイトル数の推移をみると、平成11年度には7,988タイトルあったものが、12年度7,580タイトル、13年度7,671タイトル、14年度7,205タイトル15年度7,158タイトル、16年度6,905タイトルと暫減してきた。7年間で2,000余タイトルもの大幅なカットの状況に至っている。

この理由の主たるものの一つは、いずれの大学でもやむを得ず行われている図書館図書費の抑制（ただし、本学の場合は幸いにも近年は減額なしの据え置き状況）であり、第二に、それに輪をかける事態として生じている、外国雑誌の高額化、特に自然科学・工学技術分野における理系誌代の高騰が図書費総額を圧迫していることである。その第三の理由は、学内の利用者ニーズに対応し、デジタル化とネットワーク化によって発展成長してきた電子ジャーナルへの置換を推し進めていることである。

本学の場合、これまで削減してきた原誌は電子ジャーナルを導入することによって補完できたばかりでなく、逆に、過去に最多の受入タイトル数を有したときよりも大幅に超える種類数の雑誌を閲覧可能にしていく。

一方図書館では、3年に一度、雑誌等逐次刊行物の利用調査を行うことにした。平成17年4月には全専任教育職員を対象にして「購入雑誌利用アンケート調査」を実施し、その結果、雑誌の効率利用に鑑みて平成18年分より250タイトルの購入中止を決定し、あらたに64タイトルを購入することにしている。今後とも対費用効果を見極めながら、アーカイブ保障が十全なものについては、電子ジャーナルの利用を進めていく。

本学図書館がこのような状況を展開できたのは、

①前述のとおり、集中方式の図書館に属しているため、学内図書資料の重複が避けられてきたこと、②早くから本法人が、大学資産とならない、無形で、しかも所有権もなく利用権のみがあるという電子資料の導入に図書館図書費をもって充当することを認めている先見性があったこと、③平成15年度から図書費予算の枠組みを大綱化して効率的で柔軟な執行が可能になるよう改善したことなどをあげることができる。また、後でも述べるように、④他大学との図書館間相互協力および電子ジャーナルの有効利用などによる具体的な施策を講じるためにコンソーシアムの形成に参画していること、さらには、⑤図書委員会の議論のもとで図書館に必要な予算の確保に努めてきたことによる。

4 ネットワーク情報源の有効利用

—文献・情報データベースと電子ジャーナル—

図書館をとりまく環境が急激に変化し、情報メディアのデジタル化と遠隔通信技術のネットワーク化によって発達し拡大してきたのが「ネットワーク情報源」であり、これの利用についてのニーズが学習・研究の両側面において高まっている。

多様化するメディアの中で、本学図書館においては特に、電子図書館機能の充実の一環とし促進してきているのが、電子ジャーナルと文献・情報データベース（ネットワーク情報源）の有効利用である。

本学図書館およびキャンパス内のネットワークを通じて閲覧が可能な電子ジャーナルは、前掲表2で示したように10,030タイトルである。平成15年度までには1,870タイトルを閲覧可能にしていた。16年度末では3,715タイトル、17年5月までには5,400タイトルが利用できていて、その5月以降一挙に増加をみて、1年足らずの間に2.5倍ものタイトルの増加させている。本学も幹事校を務めてきている「私立大学図書館コンソーシアム：PULC」によって、今後とタイトルの増強を図っていくことが望まれている。

後者の外部データベースについても定額制のライセンスを得て、Web of Science、SciFinder Scholarなどの大型データベースをはじめ、Westlaw、lexis.comなどの研究用や、「日経テレコン21」「聞蔵（朝日新聞記事索引）」など学生用も含めて30数種類がキャンパス内のネットワークから利用できる。平成13年に、世界最大の引用・被引用論文索引データベ

ースである上記のWeb of Scienceの導入を可能にしたのは、高額な経費を伴うものについて、私立大学5大学（関西大、慶應義塾大、早稲田大、慈恵会医科大、九州産業大）がコンソーシアムを形成することによって、版元のISIトムソン社と価格交渉を行った結果である。このコンソーシアムは、現在ではPULCの活動に受け継がれている。

外部データベースの利用実態を、本報告書「**関係資料**」(2)のj（文献・情報データベース検索回数）からみてみると、データベースの発掘と導入拡大とともに、アクセス利用が増加の傾向をたどっていることが分かる。これは、以下に示す状況等各要因が複合的に功を奏したものであると考えている。

第一の要因は、外部データベースについては、各種Web版データベースのトライアル提供を積極的に行うほか、利用者からのモニター結果などを用いてニーズを見極め、キャンパス・ネットワークを通じて有効活用が図れるよう導入策を講じてきたことである。

第二は、これらの方策を実現するために、高額な図書資料を全学で一元的に図書館図書費をもって充当できる仕組みを採用していることにほかならない。また、第三には、私費でのIR検索に限り検索料の半額補助（1回の利用で1,500円を限度）を実施するとともに、可能な限り直接検索できる定額制への契約に変更して、利用者が費用を負担することのないサービスをもって、教育・研究に必要な外部データベースの利用を支援している。

さらに第四として、図書館ホームページで、「ニュース」のページと「ネットワーク情報源」のページで案内や説明を加えるとともに、ゼミクラス単位で1人1台のパソコンを用いた「実習型ガイダンス」等によって、利用指導を積極的に実施してきたことがあげられる。

なお、平成17年度から、学習用として特に学生が日常手じかに利用できるものとして、『毎日Newsパック』（毎日新聞記事索引）、『ヨミダス文書館』（読売新聞記事索引）、『ジャパンナレッジ』（百科事典データベース）、『日経BP記事索引』（雑誌データベース）などを加えている。さらに利用の関心が進んでいくことを期待するものである。

5 図書館資料の保全策

図書館は将来にわたって、学則第65条に示す使命

を継承していくのに、①図書資料という文化的知的財産の保存、②資料の劣化防止および新しいメディアによる補完と転換、という重要な責務を負っている。本学図書館が講じてきている諸施策は、限りある資源のもとでより充実した図書館利用のサービスをめざしてきた。

図書館資料保全に関して、平成13年度から17年度の5カ年において計画し、実施してきた主な事項を以下に列挙しておくことにする。

a 貴重書のマイクロフィルム化、デジタル画像化および電子展示による公開

資料保存と利用提供の改善を図るため、昭和61年度から経年的に貴重書、近世文書、特別文庫等のマイクロフィルム化事業を推進しており、近年（平成13年度以降）は毎年度3万コマずつを撮影してきている。また、同年度からは電子図書館機能の拡充に向けて、貴重書のデジタル画像化をも進め、図書館のホームページを通じて「電子展示室」から公開が可能となった（平成14年度はパイロット版を公開）。前掲のとおり、15年度には本格的に長谷川貞信初代・二代・三代の「浮世絵」を公開し、16年度には『伊勢物語』（嵯峨本慶長刊版と延享刊版の2種）全文を発信して、大学の社会への貢献の一端を果たしている。

なお、平成15年には電子展示にかかる活動方針を策定しており、これに基づいて、17年度には館所蔵の【八代集】を加えた。そのなかでも『北山切 新古今和歌集』（貞和6〔1350〕年写）については、全1帖を公開している。

b 貴重書等の燻蒸・修復、書庫・閲覧室の消毒

図書資料保存のために毎年、書庫および閲覧室等の消毒はもちろんのこと、貴重・準貴重書の燻蒸を実施し、また随時虫害発生に即応して臨機に燻蒸を行うことで、紙魚などの殺虫・防虫と防黴等に努め学術資料の保全対策を講じている。

一方で、虫損、破損、汚損している原資料、特に古典籍など貴重書等については、裏打ち、漉きだめ、製本直しなどによって修復に努めており、また、平成7年の阪神・淡路大地震による貴重書の落下破損に鑑みて、保護ケースを順次作成してきた。

c 図書館資料の電子化推進

本学図書館は、ビジョン7項目に示す「メディアの多様化に対応する図書館」の一環として、私立大学5大学の図書館によってコンソーシアムを形成し、高額な外部データベースWeb of Scienceを導入（平

成13年度)したことは既に述べた。同年度にはlexis.comをはじめ、順次中核的な文献・情報データベース提供元とライセンス契約を結んで導入を推進し今日に至っている。

また、電子ジャーナルの導入についても同様に、本学図書館は先駆けた存在で、前掲コンソーシアムPULCの形成によって主要出版社との契約が整い、飛躍的な拡大をみていることも既に述べたとおりである。

d 書庫スペースの拡充と蔵書のスリム化

総合図書館が建設された昭和60年頃の収蔵冊数は年間約3万冊で推移していたが、その後その冊数は4万冊前後となり、開設10年後頃からは年間5～6万冊の単位で増加してきた。

その結果は明らかで、開館10年後から狭隘化を呈しはじめていたのである。集密書架を順次増設し各書架の棚板を補充する一方で、複本の除却とデジタルメディアへ転換することによって蔵書のスリム化を図り対応してきた。

現在でも、年間増加冊数は5～6万冊の経年推移を示している(表3および「基礎データ」(3)の④を参照)。増加が続くかぎり、書架の空スペースは際限なく用意していかなければならない宿命にある。

本学図書館では、その抜本的改善策の一つとして、新たな書庫を付置することによって解決し、二つは前述のとおり蔵書のスリム化を進めてきた。

第一の方策の書架スペース確保については、徐々に広げられるものではなく計画的に一気に成せるものである。旧情報処理センター(現在はITセンターとして円神館へ移転している)の跡地に、2,644平方メートルの床面積を得て、平成16年度末から17年度当初にかけて、「第2書庫」を形成し、総計7,627段(1段1シェルフ。1シェルフは85センチメートル長)を増設している。

第二の方策は、開架閲覧室の備付用途終了図書(学習用図書を毎年10,000冊リフレッシュする)と書庫の複本図書の一部を除却していることである。また、電子メディアに置換したものについては、アーカイブ保障の見込みがあるものに限り原資料を除却している。例えば、前述のとおり、膨大な*National Reporter System*の原誌全冊や、二次資料*Chemical Abstracts*の大半の冊子を除却し、これに代えて外部データベースを導入することによりアーカイブ保障をしている。書庫スペースの確保については、さらに積極的なデジタル化メディアへの転換

と蔵書のスリム化、他大学の図書館との相互利用協力の推進等を勘案していかなければならない。

除却した図書のうち平成14年度は、432冊を大阪府立中央図書館に、347冊を協定校であるロンドン大学SOASに15年度には、府立中央図書館に189冊、SOASに209冊、釜山外国語大学に2,878冊、16年度には同様に296冊を府立に、611冊をSOASに、3,422冊を釜山に寄贈して(輸送費については、各受贈先の負担)、再利用を図った。協定校への寄贈については、平成17年度から海外との協定等を所管する本学の国際交流センターが窓口になり、静宜大学(台湾)など新たな連携先を開拓している。

e 分担保存の有効性について要再考

このように先を見越した収蔵スペースの確保に加えて、図書館間の分担保存協力と相互利用協力が有効な手立てとなっていた。

膨大な新聞保管場所を要するところを、これも既に述べたように、大阪地区大学図書館新聞分担保存協定による国内外の日刊紙11紙のうち本学は2紙のみを創刊号から原紙保存をすればよく、保存スペースが割愛できてきたのである。また、昭和53年に発効した私立大学図書館協会阪神地区逐次刊行物分担保存の協定に関しては、地区間で、コア・ジャーナルを除きかつ閲覧利用が将来的にも望める学術雑誌について分担して保存しているものである。保管スペースの軽減もさることながら、各大学において資源の乏しい当時の状況のなかでは互恵の意味合いも大きかった。

本来、分担保存と相互協力は不即不離の関係にあり、そのうち分担保存については一定の成果をおさめてきたが、それは今日でいう狭い協力関係に属するコンソーシアムであった。今後の図書館間協力を鑑みると、この分担保存について活性化させるというよりは、むしろその有効性について再考すべき時期にあると考える。なぜなら、相互協力の側面から言えば、その趨勢は、従前の「相互互恵」の考え方から、今日では「資源共有」というグローバルな理念に立つ方向へと大きくシフトしているからである。多くの大学図書館の協力によって、利用者の求める学術情報の入手を容易にしていくことこそが肝要であると思料する。

6 図書館間の相互利用協力と社会貢献

ア 他大学等との図書館間相互協力

大学図書館間の相互協力の目的は、図書館の利用をより効果的に広げることであり、分担収集、分担保存、共同目録、複写や貸出を中心にして大学図書館間の円滑な相互協力と緊密な連携を図って、利用者のニーズを満たしていくことである。実際、「大学図書館の相互協力が、高等教育の質的拡充と先端科学技術研究の推進に不可欠なものであることが広く認識されるようになり」(国公私立大学図書館協力委員会『図書館相互協力便覧』の「まえがき」、学術情報、学術資料の利用度を高めることこそが、図書館間協力の条件整備の主要課題であると認識している。

経緯からみると、前掲の「大阪地区大学図書館(前掲6大学)における新聞の分担保存に関する協定」、昭和49年の私立大学図書館協会「阪神地区相互利用に関する協定」、56年の「関西四大学図書館(関西大、関西学院大、同志社大、立命館大)相互利用協定」、62年の「国公私立大学図書館間文献複写に関する協定」および同協定を継承する平成12年の「国公私立大学図書館間相互貸借に関する協定」の発効などをみることができる。とりわけ、本学図書館は、現在の国公私立大学図書館協力委員会が昭和54年に発足したときに初代の文献複写専門委員会委員長(当時の運営課長)を努めており、59年から60年の間には協力委員会委員長校(委員長:名取栄史館長)を努めるなど、組織役員派遣や運営に関して主要な役割を果たしてきている。

本学図書館における図書館間相互利用の実態について5ヵ年度の概要を、表5に掲げた数字でみると、「提供」(学外からの閲覧・貸出・複写希望)に関しては大きな変化は認められないが、学外へ文献複写を「依頼」した件数は経年増加の傾向がみられる。これは、本学の教育職員等が、学外に所在する文献を積極的に求めているということであり、研究活動に図書館間相互利用サービスが重要な役割を果たしている証左であろう。

図書館間相互利用度向上の第一は、必要とする文献情報の所在が確認できることであり、第二は文献情報の入手の可能性である。前述のとおり、本学図書館はネットワーク情報源を開拓し、ホームページを用いて積極的に案内してきたこと、および Web of Science、SciFinder Scholarなど大型のデータベースを導入して学内ネットワーク上で利用提供し、

かつ国立情報学研究所NIIのNACSIS-CAT/ILLシステムを有効活用していることが相乗効果をもたらしているものと言える。

また、本学では、図書館を中心に、NIIの共同分担目録事業である総合目録データベースの構築に参画し図書館間相互利用に資するとともに、平成11年には文部省学術情報センター(現在は、NII)の「学術雑誌目次速報データベース」構築事業に参画し、本学で刊行の研究紀要類30誌の目次を逐次入力している。さらに、「NII研究紀要ポータルサイト」などの情報発信事業をも支援している。

イ 図書館と社会貢献(図書館の公開)

本学はその使命として「教育」「研究」および「社会貢献」を掲げている。図書館が直接社会に貢献できるのは、図書館の蔵書を有効的に利用することによる「図書館の公開」のほかにはない。本学は、現時点では一般的に言われている全面的な「図書館の開放(公開)」は実施していない。かといって、本学にのみ所蔵している図書資料については、一般社会人の利用を拒んだことはなく、公立図書館を介されれば、いつでも提供してきた。遠方の社会人であっても然りで、公立図書館を通じて複写サービスも行ってきている。

図書館の公開並びに他大学等との図書館間協力のいずれにおいても、それが実効あるためには条件が整っていなければならない。

その一つは、魅力と特色のあるコレクションが揃っているか否かであり、既に述べたように、本学図書館では図書館開設以来の長い歴史において蓄積してきた蔵書が200万冊を超える。図書資料が図書館に集中しており、OPAC・データベースを充実させて、平成10年からWeb版の蔵書検索システムで所蔵情報を公開している。

蔵書が充実していること、読書環境が良好であり、交通のアクセスが至便であること、さらには日曜日・祝日も開館し、授業期の平日は22時まで開館していることなど、立地や諸環境が整っていることにより、学外からは図書館の開放を間断なく要望されてきたのである。一般社会人のみではなく、他大学の学生も然りである。自分が通っている大学よりも関西大学は自宅から近いとか、自分が所属している大学図書館と比べれば蔵書量に圧倒的な差があるから常時関西大学の図書館を利用したいとか、大阪に帰省したときの夏休み中使いたいと言う声を聞く。

第二には、公開した目録による蔵書へのアクセス

と図書館立地上のアクセスの両方が容易でなければ意味がない。数々の特色ある文庫やコレクションおよび豊富な蔵書へのアクセスを容易にすることで、本学では30点に及ぶ冊子目録を編纂刊行してきた。昭和33年刊の「細江文庫目録」をはじめ、35年刊「大阪関係資料目録」や写真で収めた平成9年刊の特色ある「大坂画壇目録」および11年制作の「内藤文庫」漢籍デジタル目録（CD-ROM版 *KUL-bijou*）などがあり、これらを各大学や都道府県等の図書館に配布してきた。現在ではこれらをWeb上でKOALAにより公開している。貴重書については全点をマイクロフィルム化し、また一部について影印本を刊行して利用の便に供している。

もう一つの立地上のアクセスについて言えば、本学の図書館はキャンパスの中央に位置しており、伝統的に集中主義の図書館を貫いてきた。京阪神各地からの交通機関および最寄の駅からのアクセスは至便と言うほかない。

必須の第三の条件は、来館者を受け入れるための十分な座席数等のスペースが用意できているかであろう。生涯学習社会においては、大学図書館の蔵書を必要としており、現有座席数の制約のなかで、その閲覧利用を希望する一般社会人をどのように受け入れていくかである。

本学の図書館は現在、一般社会人への公開について、教育・研究上の支障の有無を見極めながら現在慎重に計画を進めているところである。その足がかりとして、平成16年に本学の所在地である吹田市と地域連携に関する協定を締結したことをふまえて、17年11月から「関西大学総合図書館公開モニター」を実施している。モニターは、関西大学社会連携推進本部・地域連携センターを通じて吹田市に広報を依頼した（『市報すいた』平成17年10月1日号に掲載）ところ、応募された吹田市在住の23歳以上の市民の112名が本学の蔵書を用いて学習、調査および研究を行うために総合図書館を利用している。その期間は1年間で、本学が推進している社会連携の趣旨に基づき、図書館も社会貢献の一端を果たすために、市民のニーズの把握と実現の可能性を模索しているところであり、その結果が待たれている。

7 委員からの意見・提言

今回の点検・評価活動中において、委員から随所で種々の意見や要望が出た。次に掲げたのは、その

うちの主な3点ほどについて概要をとりまとめたものである。

(1) 大学の使命、図書館ビジョンからみた蔵書の有効利用—十分な情報開示を—

図書館間の相互利用において、本学から学外の大学図書館等に文献複写を依頼する件数が、本学が提供する件数を大幅に上回ってきていることは既に述べた。ところが、表5によって明らかのように、提供と依頼のどちらとも、閲覧および貸出については、近年あまり増減の変化が見られない。なぜか。Webによりオンラインの所蔵目録OPACを公開していて、いつでも、どこでも、だれでもが本学の蔵書を確認することができるうえに、他の大学のような学部図書館等の分散方式を採っていない本学では、蔵書を1箇所ですべてを閲覧利用できるにもかかわらず、増減の変化がないのである。

原因の一つとして需要自身が低迷してきたのではないかと考えられる。あるいは原因の第二は、OPACの情報だけでは所蔵していることすら知られなくて、また、それがどのような資料内容で、何の研究のために使えるものなのか、案内も十分に行き届いていないと思われ、利用されることが少ないのではないかと懸念がある。

閲覧・貸出の需要すなわち本学が提供する件数が増えもせず減ってもいないのは、端的にいえば、本学に多くを求めなくても済んだということになるのか。そうではないであろう。なぜかという、たとえばマイクロ資料と基本図書のように、本学が所蔵していることが世間にあまり知られていない。その資料群が一体どのような内容で構成され、どの研究分野に資することができるのか情報が十分に開示されていない事実からすれば、世間からは容易にアクセスできようがない。「図書館の公開」以前の問題であり、「資源の共有」という考え方を念頭におくことが重要であると思われる。

ア 学術研究に資するマイクロ資料

表2に示すように、本学が所蔵するマイクロ形態の資料は10万巻（箱）の膨大なものである。なかでも、*The Eighteenth Century*は昭和61年から今日まで継続して受け入れており、刊行はなおつづいている。遠大な刊行計画に対して本学図書委員会は毎年度審議し、平成17年度は60ユニットの2,100リールを購入した。その結果、長年に亘って私立大学等研究設備整備費等補助金を受けてきた。しかも、全

国13館所蔵のうち欠号無く所蔵しているのは本学以外にはない。まさしく、この資料の拠点校である。本学のみならず、全国の学生や研究者に「この資料は関大にあり」と知ってもらいたい。

息の長い刊行事業でいえば、ドイツ国内の歴史的建造物の写真資料および美術館などが所蔵する絵画・彫刻・工芸等美術作品の写真資料の*Marburger Index* (マイクロフィッシュによる集大成) や、国内のものでは「国立国会図書館所蔵 明治期刊行図書マイクロ版集成」とか「東北大学附属図書館所蔵狩野文庫マイクロ版集成」など多くのマイクロ資料があるが、所蔵するものすべてが、将来に亘って学術研究に欠くことのできない資料である。今後、相互利用すなわち「互助互惠」という域を超えて、「全国の共有資源」として認知されれば、もっと有効利用が促せると考える。

イ 研究を支える基本図書(私立大学等研究設備整備費等補助金による高額図書を含む)

基本図書費で購入される図書館資料は、図書委員会により選定されており、図書館図書費総額の12%が充当されている。委員会の選定要領をみると、「①各研究者の研究分野、研究テーマに関する図書のうち、特に学部、学科の枠を超えて必要と認められる図書、②学際領域に関する図書、③大学図書館の必要とする基本的な図書、④①～③の要件を充たし、且つ購入価格が高額に及ぶ図書」となっていて、各年度30件ほどの候補物件からおおよそ半分程度が選定されて長年蓄積されてきた。これらのことからしても、学内外の研究者に頻繁な利用が望まれる。

以上、図書館に要望したいことは、アについてもイについても積極的にしかも入念な情報開示をしていただきたいのである。

本学図書館のホームページをみると、電子ジャーナルやデータベース利用の促進のために、丹念に「ニュースページ」や「ネットワーク情報源」の更新が図られて、「何がどのように使えるのか」の案内がされている。トライアルや利用説明会も頻繁に行っていて、ニューメディアに対しては十全である。これと同じように、いわばオールドメディアに対してもホームページ上で取り扱うなど意を注いでもらいたい。

(2) 図書館サービスとしての古典籍等貴重な図書のマイクロ化・デジタル化と社会貢献—アピールの重要性—

図書の収集および蓄積において、大学として、も

はや蔵書量を誇る時代は過ぎた。質がさらに問われている。現に、大学設置基準の審査基準でも、「図書、図書館を整備するに当たって参考となる数量的な目安は設けない」とされている。本学図書館が機を見て蔵書を電子媒体に置き換え、重複図書を除却し蔵書のスリム化を図ってきているのは賢明な所作である。一方で、貴重書、準貴重書および文庫の古典籍についてはマイクロ化することによって、原本の損傷に対応するとともに利用者に閲覧の便ならしめている。影印本を刊行し世に問うてきたし、また順次電子展示によって古典籍等を公開していることも既に述べた。

『東洋経済』などによれば、大学評価のなかで本学図書館はいつも全国の上位クラスにランクされている。施設設備等利用環境が優れていることはもとより、本学には誇れる豊富な蔵書があるからである。

ここでいいたいのは、このように文化遺産である学術資料を、「関大はいかに意を用いて保存し利用に供しているか」ということと、「何を関大が持っているのか」を、もっと世間にアピールしてもらいたいのである。たしかに、毎年度購入されてきた基本図書等については、『図書館フォーラム』のなかに資料紹介が掲載されている。しかしこの読者は限られていよう。過去に行ったような学外での展示しかり、米国議会資料CISマイクロ資料購入時に開催したような公開講演会などもよし、ホームページでの公開でもよく、また、大学の広報としても図書館資料にまつわる事項について頻繁にプレスリリースできればなおよい。とにかく、時宜にかなった諸々の方法で、あらゆる機会をとらえて、積極的にアピールをされたい。

(3) 学部学生下位年次生に対する図書利用の促進

—1年次生用“レファレンスカウンター”を—

大学の方針として、1年次生前期の間に専門科目を加味する徹底した教育がおこなわれ始めている。下位年次の学部学生がよく利用する総合図書館2階には、現在19万冊を超える学習用図書が備え付けられている。ここには1年次生が使える専門書が全くないとはいえないが、決して多くはない。

一方、書庫には豊富に専門書が所蔵されている。これからの1年次生も発表やレポート作成のために、書庫の専門書や学術雑誌が必要になっている。1年次生の間において、これを使うか使わないかの図書館利用が4年間を大きく左右する。特に、1年次の前期(春学期)がもっとも大事であろう。「2階の“学

習用図書”から、地階書庫の“専門書”への橋渡し」が重要になってくるとともに、1年次生には1年次生なりの文献の調べ方を会得させなければならない。

ところが、学生たちに聞いてみると、「1階のカウンターは、2階のカウンターと違って敷居が高い」という。その解消のために、試験期間にはフロアサービスがあり、既に「下位年次生向けクラス別ガイダンス」もおこなわれてきて久しい。方法の一つは、そのガイダンスの内容についてもう一步踏み込んで、専門書をいかに利用すべきかを教えてもらいたいのである。

それに加えて提案であるが、1年次生が気軽に図書や文献の相談ができる「1年次生用のレファレンスカウンター」を設けてもらいたい。物理的にカウンターをもう一つ増やすことはできない。今ある、レファレンスカウンターとメインカウンターの一角に、新たな「1年次生用のレファレンス・サービス(相談窓口)」の看板をあげてもらえればよいのである。

(4) その他望みたいこと

ア 電子ジャーナルの導入促進と、文献複写入手・購入希望図書処理の時間短縮を

電子ジャーナルが大幅に導入されてから、非常に便利になった。速報性が重要な理系の人間にとって、冊子体よりも早く読めることは大変有益である。また、時間を気にせずに文献が検索、入手できることが非常に便利である。今後とも、電子ジャーナルの推進をお願いしたい。また、Elsevier社のScience Directのように、手続きをすれば学外からでも利用できるようにしていただきたいと思う。

種々の手続きなどがあって大変なことだとは思いますが、①相互利用による文献複写の入手できるまでの時間と、②購入を希望した図書が利用できるまでの時間を、それぞれ短縮していただくとありがたい。

また、工学部の教員個人個人は「コピーカード」持っておらず不便であるから、善処をお願いしたい。

イ 外国書新着受入リストの復活を

最後に別件ではあるが、希望がある。昭和60年以前の旧館の時代には、毎月 *Kansai University Library Books newly received* と称する冊子が教育職員に配られていた。デジタルの時代ともなれば冊子でなくてもよいので、できれば、新規に購入した研究用図書のうち外国書について、せめて2ヵ月毎か四半期毎の「新着受入リスト」を、大学ホームページのインフォメーションシステム(学内向け)に

掲示してもらえないか。OPACとは異なった情報提供の価値を生むであろう。さすれば、もっと貸出冊数、すなわち蔵書回転率もあがり、研究の促進に資することができる。

おわりに 一課題と展望一

本学図書館は、教育・研究を支援する目的に沿って、基本的な図書を体系的に整備してきた。また、社会における大学として文化・文明を支え担うためにも、古典籍等貴重なコレクションの収集と保全を行うとともに電子情報化を推進して、理念の実現に向けてより踏み込んだ活動をしていると言える。

今日よく言われている「ハイブリッド型図書館」すなわち、紙資料を中心とする従前からの図書館本来の図書館機能を「継承」とともに、資料の劣化を補完する一方で他方では利用を至便ならしめるデジタルメディアへ転換するという「変革」をも進めている。すなわち、20世紀の終わりに情報通信技術が進歩したことにより、ネットワーク化とともにメディアのデジタル化が普及して、いわゆる情報の「記録と複製の水準」並びに「収集と蓄積の水準」においても、大学図書館にもたらした影響は大きい。

本学図書館がさらなる発展を期すには、「継承」「変革」に加えて、このネットワーク化によるグローバルな図書館間の連携を活性化させることであろう。この「連携」という協力こそが、将来の大きなキーとなってくると思料する。

最後に次のことを付言しておきたい。

大学が創立120周年をむかえ、将来を見据えた改革を推進しさらなる躍進をしている。図書館も創設100年の経緯を辿ると、大学の発展とともに変革を遂げてきた。近年においては、平成10年に策定した「図書館ビジョン7項目」に沿って、今日まで7年間、前回および今回の報告書にみるとおり、よくその具現化を成しえて来ていると言える。

そもそも自己点検・評価活動は、ビジョンに則して価値ある目標を追求し、具現化策を講じその結果を評価して、発生した問題点や課題の解決をしていくものである。すなわち、改善、改革していくために行う活動であるがゆえに、策定したビジョンそのものも、改善、改革に向けて必要に応じ再構築していかなければならないものと考えられる。

(以 上)

Ⅱ 自己点検・評価関係資料

1 基礎データ（平成17年度）

- (1) 入館者に関する統計
 - a 過去5年間の月別開館日数
 - b 所属・学年別入館者数および1人当たり平均入館回数（総合図書館）
 - c 月別・資格別入館者数および1日当たり平均入館回数
 - d 時期別・時間帯別総入館者数および1日当たり平均入館者数（総合図書館）
- (2) 図書資料の利用に関する統計
 - a 月別図書利用者数および利用冊数
 - b 月別入庫検索者数
 - c グループ閲覧室利用状況
 - d 文献複写サービス
 - e 図書館間相互利用（件数）
 - f 参考業務（件数）
 - g 利用指導
 - h 過去5年間の図書館ホームページアクセス件数
 - i 学内で閲覧できるオンラインジャーナル
 - j 文献・情報データベース検索回数
- (3) 蔵書に関する統計
 - ① 取書状況
 - a 図書資料異動状況
 - b 雑誌・新聞受入種類数
 - ② 分類別所蔵図書冊数
 - ③ 分類別所蔵雑誌種類数
 - ④ 図書費5年間の推移
- (4) その他関連統計等
 - ① 図書館職員
 - a 図書館職員内訳
 - b 図書館職員数5年間の推移
 - ② 10年間の展示会テーマと会期
 - ③ 資料の出陳・放映（学外からの依頼分）

(1) 入館者に関する統計

a 過去5年間の月別開館日数

館別	月別	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	総合図書館	平成13年度	28 (5)	30 (6)	28 (4)	29 (5)	17 (0)	24 (3)	30 (5)	27 (4)	26 (5)	24 (4)	15 (0)	20 (0)	298 (41)
平成14年度		28 (4)	30 (6)	28 (5)	30 (5)	15 (0)	24 (3)	30 (5)	27 (4)	26 (5)	24 (4)	16 (0)	20 (0)	298 (41)	
平成15年度		29 (4)	30 (6)	28 (5)	30 (5)	13 (0)	24 (3)	29 (5)	26 (5)	26 (4)	24 (4)	17 (0)	19 (0)	295 (40)	
平成16年度		29 (4)	30 (7)	28 (4)	29 (5)	14 (0)	23 (2)	29 (5)	26 (5)	25 (4)	25 (5)	16 (0)	19 (0)	293 (41)	
平成17年度		29 (4)	30 (7)	28 (3)	29 (5)	18 (0)	26 (2)	29 (6)	26 (5)	26 (5)	25 (5)	16 (0)	19 (0)	301 (42)	
高槻図書室	平成13年度	22	24	24	24	8	20	25	24	20	20	15	23	249	
	平成14年度	23	24	23	25	12	19	25	23	19	20	16	23	252	
	平成15年度	25	25	23	25	11	18	25	21	20	20	17	21	251	
	平成16年度	25	23	24	24	12	18	24	23	20	19	16	21	249	
	平成17年度	25	23	25	23	8	19	24	23	18	19	16	21	244	

注 カッコ内は授業期間中の日曜・祝日開館日数で内数。高槻図書室は日曜・祝日は閉室していない

b 所属・学年別入館者数および1人当たり平均入館回数（総合図書館）

所属		学年	1年	2年	3年	4年	合計
第1部学生	法学部	入館者数	41,023	47,619	44,250	36,480	169,372
		平均入館回数	47.5	48.1	52.9	33.7	44.9
	文学部	入館者数	32,817	29,494	33,358	31,236	126,905
		平均入館回数	34.8	32.0	38.9	29.9	33.7
	経済学部	入館者数	33,329	19,626	24,218	15,444	92,617
		平均入館回数	35.4	23.2	29.4	14.3	25.1
	商学部	入館者数	22,271	17,749	22,382	16,989	79,391
		平均入館回数	27.8	21.4	26.7	17.6	23.1
	社会学部	入館者数	24,296	23,384	25,102	19,904	92,686
		平均入館回数	29.0	24.6	27.5	18.7	24.6
総合情報学部	入館者数	206	283	511	1,087	2,087	
	平均入館回数	0.4	0.5	1.0	1.5	0.9	
工学部	入館者数	56,407	56,559	55,736	40,487	209,189	
	平均入館回数	44.6	45.9	54.1	24.4	40.3	
小計	入館者数	210,349	194,714	205,557	161,627	770,160	
	平均入館回数	37.2	33.7	38.8	23.4	32.6	
第2部学生	入館者数	-	-	-	13,875	13,875	
	平均入館回数	-	-	-	20.9	20.9	
計	入館者数	210,349	194,714	205,557	175,502	784,035	
	平均入館回数	33.9	30.5	35.3	21.2	29.4	
大学院学生		入館者数				76,807	
		平均入館回数				43.2	
専任教職員	大学教員	入館者数				8,849	
		平均入館回数				14.5	
	高中幼教諭	入館者数	(高中幼非常勤講師を含む実数)				128
		平均入館回数	(上記入館者数/高中幼専任教諭の人数)				1.4
	事務職員	入館者数	(役員を含む実数)				1,799
		平均入館回数	(上記入館者数/専任事務職員の人数)				3.8
上記を除く教職員		入館者数	(特任教員、客員教授、非常勤講師、名誉教授、上記を除く職員等)				9,977
校友		入館者数					30,222
その他		入館者数					20,298
合計		入館者数					934,632

- 注1 総合情報学部学生はキャンパスが異なるため、小計および計には含めないが合計の入館者数には含む。
 2 平均入館回数は、入館者数を利用対象者数（平成16年5月1日現在）で割った、一人当たりの数値である。
 3 その他は、科目等履修生や聴講生、関西三大学（関西学院・同志社・立命館）の専任教員や大学院学生、他機関からの利用者である。

c 月別・資格別入館者数および1日当たり平均入館回数

区分 月別	総合図書館								高槻図書館	
	学部学生	大学院学生	教職員	校友	その他	合計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日	総入室者数	日平均
4	76,954	9,338	2,659	3,038	1,914	93,903	3,698.6	359.8	5,673	227
5	87,228	8,976	2,357	3,794	1,770	104,125	4,355.6	563.7	6,143	268
6	100,294	9,075	2,362	3,751	1,842	117,324	4,796.1	739.0	7,047	282
7	148,943	8,056	2,071	3,387	2,214	164,671	6,340.2	2,501.4	10,375	452
8	10,770	3,094	1,090	2,080	479	17,513	1,250.9	-	452	57
9	30,993	5,586	1,877	2,757	909	42,122	1,949.0	596.5	3,496	184
10	67,249	8,363	2,333	2,836	3,395	84,176	3,370.8	546.2	7,231	302
11	67,744	7,482	2,247	2,182	1,635	81,290	3,726.2	607.8	6,993	304
12	63,296	6,135	1,896	1,799	1,175	74,301	3,416.1	512.4	5,285	294
1	112,991	5,959	1,706	1,840	2,024	124,520	5,517.5	1,730.6	8,003	422
2	10,253	2,505	878	1,173	532	15,341	958.8	-	679	43
3	9,407	2,668	1,030	1,585	656	15,346	807.7	-	723	35
合計	786,122	77,237	22,506	30,222	18,545	934,632	3,540.7	924.6	62,100	255

- 注1 高槻図書館については、資格別の計数をしていない。
 2 「教職員」とは上記b表の専任教職員および非常勤講師・名誉教授を示し、「その他」とは上記b表の注3に同じ。

d 時期別・時間帯別総入館者数および1日当たり平均入館者数（総合図書館）

区分	時間帯	9~10	10~11	11~12	12~13	13~14	14~15	15~16	16~17	17~18	18~19	19~20	20~21	21~22	合計	
前期	授業期間	総入館者	15,006	38,110	22,883	47,502	34,791	51,858	25,404	35,998	25,931	16,971	11,300	5,827	3,589	335,170
		1日平均	202.8	515.0	309.2	641.9	470.1	700.8	343.3	486.5	350.4	229.3	152.7	78.7	48.5	4,529.3
	試験期間	総入館者	11,611	10,037	9,614	13,939	12,767	14,676	9,858	10,224	9,610	6,078	5,020	2,901	1,041	117,376
		1日平均	683.0	590.4	565.5	819.9	751.0	863.3	579.9	601.4	565.3	357.5	295.3	170.6	61.2	6,904.5
休暇期間	総入館者		5,179	3,691	4,723	5,761	5,697	5,118	4,643	2,454	1,710	758			39,734	
	1日平均		129.5	92.3	118.1	144.0	142.4	128.0	116.1	61.4	42.8	19.0			993.4	
小計	総入館者	26,617	53,326	36,188	66,164	53,319	72,231	40,380	50,865	37,995	24,759	17,078	8,728	4,630	492,280	
	1日平均	292.5	407.1	276.2	505.1	407.0	551.4	308.2	388.3	290.0	189.0	130.4	95.9	50.9	3,757.9	

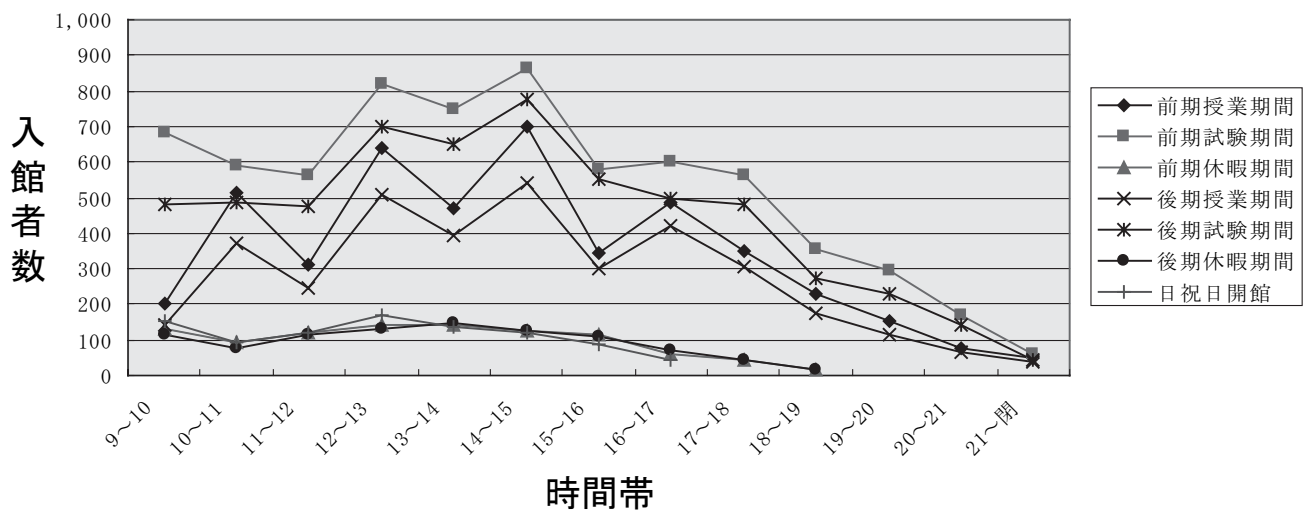
後期	授業期間	総入館者	9,717	25,789	17,068	34,913	27,105	37,516	20,665	29,077	21,062	12,202	8,076	4,705	2,783	250,678
		1日平均	140.8	373.8	247.4	506.0	392.8	543.7	299.5	421.4	305.2	176.8	117.0	68.2	40.3	3,633.0
	試験期間	総入館者	9,668	9,770	9,522	13,965	13,018	15,558	11,022	9,950	9,599	5,410	4,580	2,878	927	115,867
		1日平均	483.4	488.5	476.1	698.3	650.9	777.9	551.1	497.5	480.0	270.5	229.0	143.9	46.4	5,793.4
休暇期間	総入館者		4,441	3,055	4,490	5,172	5,658	4,821	4,272	2,690	1,653	722			36,974	
	1日平均		113.9	78.3	115.1	132.6	145.1	123.6	109.5	69.0	42.4	18.5			948.1	
小計	総入館者	19,385	40,000	29,645	53,368	45,295	58,732	36,508	43,299	33,351	19,265	13,378	7,583	3,710	403,519	
	1日平均	217.8	312.5	231.6	416.9	353.9	458.8	285.2	338.3	260.6	150.5	104.5	85.2	41.7	3,152.5	

日祝開館	総入館者		6,407	3,807	5,104	7,111	5,840	4,952	3,735	1,877					38,833
	1日平均		152.5	90.6	121.5	169.3	139.0	117.9	88.9	44.7					924.6

年度合計	総入館者	46,002	99,733	69,640	124,636	105,725	136,803	81,840	97,899	73,223	44,024	30,456	16,311	8,340	934,632
	1日平均	255.6	331.3	231.4	414.1	351.2	454.5	271.9	325.2	243.3	170.0	117.6	90.6	46.3	3,105.1

- 注1 前期 授業期間：4月6日～7月7日 試験期間：7月8日～7月28日 休暇期間：4月1日～4月5日、7月29日～9月20日
 後期 授業期間：9月21日～12月21日 試験期間：1月6日～1月30日 休暇期間：12月22日～1月5日、2月9日～3月28日
 2 各期間の開館日数および入館者数には、日曜祝日開館に係る数値を含まない。
 3 試験期間とは、図書資料の貸出期間を3日間に短縮した日から試験終了日までを示す。
 4 各小計および年間の時間帯別平均入館者数は開館実日数で除しているが、年間総平均入館者数は年間開館日数で除している。

時間帯別1日当たり平均入館者数



(2) 図書資料の利用に関する統計

a 月別図書利用者数および利用冊数

利用区分		月 別												合 計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
総 合 計	館内 閲 覧	学部学生	1,060	1,701	2,178	1,438	374	952	1,941	2,399	2,393	1,203	175	116	15,930
			1,746	3,028	3,752	2,456	846	1,820	3,521	4,489	4,733	2,159	332	244	29,126
	大学院学生		299	311	385	217	104	248	368	313	305	220	124	126	3,020
			490	583	719	442	204	492	708	622	625	396	229	274	5,784
	教 職 員		63	76	92	74	61	62	91	64	56	40	36	50	765
			110	142	163	143	127	133	170	119	112	98	85	112	1,514
	そ の 他		173	226	242	296	204	303	240	246	254	292	186	200	2,862
			446	567	604	837	586	843	634	668	721	776	559	565	7,806
	計		1,595	2,314	2,897	2,025	743	1,565	2,640	3,022	3,008	1,755	521	492	22,577
			2,792	4,320	5,238	3,878	1,763	3,288	5,033	5,898	6,191	3,429	1,205	1,195	44,230
書 館 外 貸 出	学部学生		10,250	14,239	19,404	20,078	2,634	6,595	13,822	14,524	15,277	16,162	1,996	1,369	136,350
			17,478	24,263	33,034	36,024	5,513	12,036	24,309	25,625	27,917	31,212	4,191	2,652	244,254
	大学院学生		2,615	2,539	2,570	2,528	1,181	1,693	2,420	2,376	2,063	1,878	811	710	23,384
			4,847	4,634	4,578	4,998	2,444	3,257	4,579	4,618	4,149	3,877	1,702	1,498	45,181
	教 職 員		773	781	717	608	356	618	703	643	563	563	323	369	7,017
			1,760	1,722	1,556	1,343	958	1,386	1,562	1,397	1,257	1,305	756	916	15,918
	そ の 他		672	856	844	740	547	777	773	837	672	574	432	527	8,251
			1,473	1,763	1,853	1,686	1,207	1,554	1,652	1,729	1,363	1,742	1,008	1,145	18,175
	計		14,310	18,415	23,535	23,954	4,718	9,683	17,718	18,380	18,575	19,177	3,562	2,975	175,002
			25,558	32,382	41,021	44,051	10,122	18,233	32,102	33,369	34,686	38,136	7,657	6,211	323,528
合 計		15,905	20,729	26,432	25,979	5,461	11,248	20,358	21,402	21,583	20,932	4,083	3,467	197,579	
		28,350	36,702	46,259	47,929	11,885	21,521	37,135	39,267	40,877	41,565	8,862	7,406	367,758	

高 槻 図 書 室	館外 貸出・ 館内 閲覧	学部学生	884	1,198	1,422	814	77	526	1,310	1,207	1,001	656	100	48	9,243
			1,798	2,401	2,555	1,497	205	994	2,322	2,191	1,937	1,380	221	121	17,622
	大学院学生		164	193	228	178	64	127	205	175	137	97	44	9	1,621
			336	419	439	402	164	271	454	341	275	270	98	22	3,491
	教 職 員		40	37	18	27	15	22	26	25	34	29	25	10	308
			71	67	36	66	43	55	61	50	76	57	39	18	639
	学 外 者		29	19	28	33	3	9	25	20	22	16	12	14	230
			47	27	62	53	8	27	65	40	40	30	30	31	460
	計		1,117	1,447	1,696	1,052	159	684	1,566	1,427	1,194	798	181	81	11,402
			2,252	2,914	3,092	2,018	420	1,347	2,902	2,622	2,328	1,737	388	192	22,212

注1 館内閲覧・館外貸出ともに上段は利用者数、下段は利用冊数を示す。

2 館内閲覧は、接架図書以外の出納・取り寄せによる館内閲覧手続を行なったものを示す。

b 月別入庫検索者数

利用区分		月 別												合 計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
総 合 計	入 庫 検 索	学部学生	599	1,238	1,592	1,802	516	990	1,556	1,652	1,703	1,277	187	163	13,275
		大学院学生	2,281	2,369	2,367	2,153	921	1,567	2,307	2,108	1,711	1,639	664	700	20,787
		教 職 員	819	818	789	680	477	698	751	770	532	554	311	387	7,586
		そ の 他	63	67	83	98	83	74	103	140	130	111	72	86	1,110
		計	3,762	4,492	4,831	4,733	1,997	3,329	4,717	4,670	4,076	3,581	1,234	1,336	42,758

注1 入庫検索とは、図書館利用規程第13条による書庫図書の利用をいう。

2 「その他」とは、特別の事由により入庫を許可された研究員等を示す。

c グループ閲覧室利用状況

月別	区分 利用コマ数	利用者数
4月	104	1,740
5月	117	1,776
6月	130	1,796
7月	97	1,463
8月	72	851
9月	71	977
10月	142	1,698
11月	110	1,379
12月	123	1,593
1月	52	631
2月	45	466
3月	18	234
合計	1,081	14,604
日平均 (日祝日を除く)	4.2	56

注 総合図書館における利用状況である。

d 文献複写サービス

種別・月別	区分	総合図書館	高槻図書室
		枚数	枚数
電 子 式 複 写	4月	107,402	1,886
	5月	144,560	2,607
	6月	141,465	2,984
	7月	213,521	2,382
	8月	69,340	564
	9月	97,233	1,973
	10月	151,154	3,239
	11月	139,037	3,834
	12月	167,329	2,766
	1月	177,150	1,394
	2月	117,012	773
	3月	84,011	282
小計	1,609,214	24,684	
カラー複写	3,043	—	
CD-ROM検索印刷	132	—	
小計	3,175	—	
合計	1,612,389	24,684	

複 写 マ イ ク ロ	学内者(コマ数)	26,897	—
	学外者(コマ数)	3,320	—

e 図書館間相互利用(件数)

種別 月別	国内								国外							
	提供				依頼				提供				依頼			
	閲覧	貸出	複写	合計	閲覧	借用	複写	合計	閲覧	貸出	複写	合計	閲覧	借用	複写	合計
4月	35	68	316	419	23	62	343	428	0	0	0	0	1	0	10	11
5月	34	51	440	525	17	60	432	509	0	0	0	0	8	0	8	16
6月	36	52	469	557	20	69	342	431	1	0	0	1	0	0	9	9
7月	54	62	404	520	31	73	450	554	1	0	0	1	1	0	11	12
8月	42	46	315	403	14	53	201	268	0	0	1	1	0	0	1	1
9月	49	53	416	518	12	75	392	479	0	0	0	0	0	1	3	4
10月	45	52	443	540	32	100	518	650	0	0	0	0	1	1	13	15
11月	58	63	349	470	24	104	474	602	0	0	0	0	0	0	10	10
12月	56	39	332	427	24	44	411	479	0	0	0	0	0	0	6	6
1月	37	56	315	408	4	120	303	427	0	0	0	0	2	0	11	13
2月	40	44	227	311	10	45	173	228	0	0	0	0	0	0	6	6
3月	0	46	292	338	10	83	151	244	0	0	0	0	0	0	6	6
合計	486	632	4,318	5,436	221	888	4,190	5,299	2	0	1	3	13	2	94	109

f 参考業務（件数）

区 分	学 内 利 用 者				学 外 利 用 者			合 計	
	教職員	大学院学生	学部学生	その他	校 友	諸機関	その他		
調 査	所 蔵	25	21	16	3	2	0	3	70
	事 項	12	8	17	1	13	0	0	51
	そ の 他	7	5	0	0	1	1	2	16
	計	44	34	33	4	16	1	5	137

注1 申込書の提出により処理した件数のみ表す。
 2 学内利用者における「その他」には、学内他部署からの業務上の問い合わせのほか、科目等履修生および聴講生が含まれる。

g 利用指導

種 別	件 数	人 数
① 図書館ツアー	16	138
② レポート・卒論作成のための文献の探し方	10	70
③ 上位年次生の入庫案内	-	3,001
④ 上位年次生向けクラス別ガイダンス	130	1,643
⑤ 下位年次生向けクラス別ガイダンス	100	2,864
⑥ 実習型ガイダンス	19	507

注1 ①②は、個人単位で行う。
 2 ③は、個人単位、クラス単位の合算であり、件数は計数できない。

h 過去5年間の図書館ホームページアクセス件数

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
図書館ホームページアクセス数(a)	1,082,826	1,281,673	1,246,190	1,424,276	1,367,635
大学ホームページのアクセス数(b)	8,899,621	13,873,759	18,352,977	22,219,676	22,566,490
(a/b) × 100	12.2%	9.2%	6.8%	6.4%	6.1%

注 (a)は、図書館のトップページにアクセスした回数で、直接KOALAやネットワーク情報源等にアクセスした回数は含まない。また、同様に(b)も、大学各機関のトップページにアクセスした回数を示す。

i 学内で閲覧利用できるオンラインジャーナル

種 類	タイトル数 (50点以上は概数)
ACS (American Chemical Society)*	33
APS (American Physical Society)	8
Blackwell Synergy*	760
CiNii	1,350
Elsevier Science Direct*	1,680
Emerald Fulltext*	100
IEEE/IEE Electronic Library Online*	620
JSTOR*	160
Oxford University Press*	160
Sage	100
SourceOECD*	25
Springer	1,150
Springer Online Journal Archive	(Springerの内数 810)
SwetsWise	7,420
Wiley InterScience*	280
合 計	10,030

注1 *印を付した各社と契約した電子ジャーナルは、SwetsWiseからでも閲覧することができる。上記「合計」数には算入していない。
 2 ACS, APS, IEEE, Sage, Springer, Springer(OJA)については平成18年1月から閲覧に供している。

j 文献・情報データベース検索回数

種 別	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	備 考
CiNii (NII論文情報ナビゲータ)	-	-	-	-	35,710	平成17年4月～
CSA Illumina (専門分野型データベース)	-	-	134	1,363	1,124	平成15年11月～平成17年2月にCSA Internet Database Serviceから名称変更
Enjoy JOIS / JDream (科学技術情報索引)	4,539	10,927	19,144	64,124	75,323	平成15年10月からJDreamに移行
JURIS Online (独国法律情報データベース)	-	-	-	107	641	平成16年10月～
LEX/DB インターネット (法律情報データベース)*	-	-	4,482	6,554	6,495	平成15年4月～
lexis.com (法情報索引)	7,663	10,407	4,526	6,239	6,061	
LISA (図書館情報学文献索引)	-	204	566	◇	◇	
LLBA (言語学雑誌記事・文献索引)	-	457	283	◇	◇	
MAGAZINEPLUS (和雑誌記事索引)	18,886	40,811	78,910	89,399	103,300	
MERGENT Online (米国企業情報データベース)*	-	-	5	63	36	平成15年11月～
METADEx (「Metal Abstracts」掲載論文索引)	142	292	307	48	15	
NACSIS-IR (学術文献データベース、機関別定額制分のみ)*	-	534	562	604	98	平成14年4月～平成17年3月
OCLC FirstSearch (総合データベース)	4,529	7,434	6,545	5,279	6,140	
PsycINFO (心理学雑誌記事・文献索引)	1,563	2,960	2,981	2,059	3,045	平成13年6月～
SciFinder Scholar (化学情報データベース)	-	-	15,626	22,106	2,1969	
Web of Knowledge (引用情報を含む学術文献データベース)*	-	-	6,730	7,358	5,175	
Web of Science (引用・被引用論文索引)	5,295	18,423	23,075	26,210	24,983	平成13年8月～
Web OYA-bunko (大宅壮一文庫雑誌記事索引)*	-	-	-	-	203	平成17年11月～
ジャパンナレッジ (百科事典データベース)*	-	-	-	-	1,470	平成17年4月～
日経NEEDS-Financial QUEST (社会・地域統計)★	-	5,803	493,174	419,776	50,827	平成14年7月～
日経テレコン21 (ビジネス情報データベース)☆	-	-	209,274	911,818	1194,815	平成15年10月～
毎日Newsパック (毎日新聞記事索引)*	-	-	-	-	1,456	平成17年4月～
ヨミダス文書館 (読売新聞記事索引)	-	-	-	-	4,749	平成17年4月～
「聞蔵」(朝日新聞記事索引)*	2,848	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	平成15年4月に朝日DNAから名称変更
IBZ (洋雑誌記事索引)						
International Statistical Yearbook (欧米・国際機関の統計データ集)	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	
LexisNexis Congressional (米国議会情報索引)						平成14年1月に、CIS Congressional Universeから名称変更
Westlaw (法情報索引)	-	-	-	-	-	
United Nations Treaty Collection(国連データベース)	-	-	-	-	-	平成16年5月～
ICPSR (社会調査統計データアーカイブ)	-	-	-	-	-	平成17年4月～

注1 各統計は、平成13年は4月～12月まで、それ以外は1月～12月までの合計である。また、統計値については、データベース提供機関が独自の基準で計数した値をそのまま利用している。従って、それぞれの統計値が必ずしも同じ算出方法であるとは限らない。

2 *はログイン回数である。また、☆は結果表示件数を、★はダウンロード件数を示す。

3 CSA Illuminaには、ERIC、LISA、LLBA、Social Service Abstracts、Sociological Abstractsが含まれる。

◇は、平成16年以降CSA Illuminaの統計値に含まれることを示す。また、Web of KnowledgeにはWeb of Science及びISI Proceedingsが含まれる。

4 Web of Scienceの平成14年6月、7月分の件数は、提供機関でのシステムトラブルで作成されなかったため含まれていない。

5 表中の「-」は、当該年度は利用開始していないことを示す。

6 NACSIS-IRは平成17年3月末にサービスを終了し、平成17年4月からGeNii(学術コンテンツポータル)のもとでCiNii等のデータベースにサービスが再編された。

(3) 蔵書に関する統計

① 収書状況

a 図書資料異動状況

(単位：点)

区分	種別	和書	洋書	マイクロ資料		その他	合計
				フィルム	フィッシュ		
取得内訳	購入	28,684	8,192	2,960	166	103	40,105
	受贈	7,230	1,148	0	0	2	8,380
	その他	3,227	5,326	128	47	14	8,742
	合計	39,141	14,666	3,088	213	119	57,227
除籍抹消		25,656	11,945	0	0	0	37,601
増減計		13,485	2,721	3,088	213	119	19,626
期末在 high		1,187,331	729,666	84,900	20,282	5,021	2,027,200

b 雑誌・新聞受入種類数

区分	種別	雑誌・新聞		
		和	洋	合計
取得内訳	購入	1,677	2,436	4,113
	受贈	1,511	121	1,632
	その他	59	10	69
	合計	3,247	2,567	5,814

注 継続して受入れている雑誌・新聞には、電子ジャーナルの一部を含んでいる。

注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。以下の統計についても同様とする。

2 「種別」の「その他」はAV資料、CD-ROM、DVD-ROM等の資料を含む。

② 分類別所蔵図書冊数（日本十進分類法による）

分類	内 訳	和	洋	合計
000	総 記	16,223	10,228	26,451
010	図書館	5,665	4,199	9,864
020	図書・書誌学	15,019	14,411	29,430
030	百科事典	3,552	3,815	7,367
040	一般論文・講演集	14,987	1,372	16,359
050	逐次刊行物・年鑑	19,536	7,090	26,626
060	学会・団体・調査機関	1,124	421	1,545
070	ジャーナリズム・新聞	13,196	6,286	19,482
080	叢書・全集	52,994	16,957	69,951
090	郷土資料	1,196	2,251	3,447
総記・計		143,492	67,030	210,522
100	哲 学	3,714	5,030	8,744
110	哲学各論	2,006	3,288	5,294
120	東洋思想	15,525	600	16,125
130	西洋哲学	6,080	16,403	22,483
140	心理学	10,608	13,545	24,153
150	倫理学	2,859	1,247	4,106
160	宗 教	4,722	3,268	7,990
170	神 道	2,187	40	2,227
180	仏 教	12,931	1,545	14,476
190	キリスト教	5,446	7,670	13,116
哲学・計		66,078	52,636	118,714
200	歴 史	5,801	10,106	15,907
210	日本史	45,100	1,038	46,138
220	アジア史・東洋史	25,980	4,055	30,035
230	ヨーロッパ史・西洋史	4,487	14,946	19,433
240	アフリカ史	290	1,050	1,340
250	北アメリカ史	731	2,237	2,968
260	南アメリカ史	83	80	163
270	オセアニア史	55	145	200
280	伝 記	17,550	6,492	24,042
290	地理・地誌・紀行	28,809	6,127	34,936
歴史・計		128,886	46,276	175,162

分類	内 訳	和	洋	合計
300	社会科学	11,797	7,237	19,034
310	政 治	34,125	38,916	73,041
320	法 律	57,924	75,137	133,061
330	経 済	82,526	89,475	172,001
340	財 政	6,683	5,778	12,461
350	統 計	8,157	5,703	13,860
360	社 会	45,002	45,384	90,386
370	教 育	38,980	12,160	51,140
380	風俗習慣・民俗学	14,202	3,847	18,049
390	国防・軍事	2,926	1,061	3,987
社会科学・計		302,322	284,698	587,020
400	自然科学	6,736	8,072	14,808
410	数 学	10,042	14,975	25,017
420	物理学	6,189	14,909	21,098
430	化 学	6,802	13,832	20,634
440	天文学・宇宙科学	1,793	840	2,633
450	地球科学・地学・地質学	4,983	3,888	8,871
460	生物科学・一般生物学	5,967	8,087	14,054
470	植物学	1,071	318	1,389
480	動物学	1,784	389	2,173
490	医学・薬学	14,538	7,856	22,394
自然科学・計		59,905	73,166	133,071
500	技術・工学・工業	15,717	21,097	36,814
510	建設工学・土木工学	15,557	9,860	25,417
520	建築学	14,229	5,711	19,940
530	機械工学・原子力工学	9,947	7,923	17,870
540	電気工学・電子工学	23,416	18,082	41,498
550	海洋工学・船舶工学・兵器	1,240	328	1,568
560	金属工学・鉱山工学	5,413	6,203	11,616
570	化学工業	6,773	6,875	13,648
580	製造工業	4,076	1,376	5,452
590	家政学・生活科学	1,273	283	1,556
技術・計		97,641	77,738	175,379

分類	内 訳	和	洋	合 計
600	産 業	4,657	359	5,016
610	農 業	11,032	4,009	15,041
620	園芸・造園	1,021	161	1,182
630	蚕糸業	218	10	228
640	畜産業・獣医学	695	117	812
650	林 業	1,178	197	1,375
660	水産業	1,469	244	1,713
670	商 業	15,921	13,312	29,233
680	運輸・交通	7,507	6,057	13,564
690	通信事業	3,072	2,211	5,283
産業・計		46,770	26,677	73,447
700	芸 術	11,612	5,026	16,638
710	彫 刻	820	253	1,073
720	絵画・書道	15,422	3,063	18,485
730	版 画	798	313	1,111
740	写真・印刷	1,905	425	2,330
750	工 芸	3,630	1,295	4,925
760	音楽・舞踏	4,423	1,082	5,505
770	演劇・映画	11,521	1,902	13,423
780	スポーツ・体育	6,010	634	6,644
790	諸芸・娯楽	1,294	98	1,392
芸術・計		57,435	14,091	71,526

分類	内 訳	和	洋	合 計
800	言 語	4,045	10,860	14,905
810	日本語	9,155	199	9,354
820	中国語・東洋の諸言語	7,727	939	8,666
830	英 語	6,465	5,877	12,342
840	ドイツ語	1,276	4,197	5,473
850	フランス語	1,171	2,810	3,981
860	スペイン語	507	460	967
870	イタリア語	102	364	466
880	ロシア語	351	1,292	1,643
890	その他の諸言語	331	826	1,157
言語・計		31,130	31,684	62,814
900	文 学	11,209	9,893	21,102
910	日本文学	89,520	1,441	90,961
920	中国文学・東洋文学	23,964	655	24,619
930	英米文学	8,053	21,290	29,343
940	ドイツ文学	3,118	12,375	15,493
950	フランス文学	4,032	12,039	16,071
960	スペイン文学	1,488	10,564	12,052
970	イタリア文学	375	439	814
980	ロシア文学	1,586	3,004	4,590
990	その他の諸文学	413	1,129	1,542
文学・計		143,758	72,829	216,587
合 計		1,077,417	746,825	1,824,242
その他				202,958
図書館蔵書数				2,027,200

注 「その他」は、個人文庫などの未分類図書を表す。

③ 分類別所蔵雑誌種類数（日本十進分類法による）

分類	内 訳	和	洋	合 計
000	総 記	4,601	953	5,554
100	哲 学	447	627	1,074
200	歴 史	829	373	1,202
300	社会科学	3,623	3,934	7,557
400	自然科学	659	1,643	2,302
500	技 術	1,634	1,875	3,509
600	産 業	653	402	1,055
700	芸 術	708	138	846
800	言 語	248	292	540
900	文 学	1,634	471	2,105
その他		9	6	15
合 計		15,045	10,714	25,759

注 重複するタイトルは、カウントしていない。

④ 図書費5年間の推移

(単位：円)

		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
図 書	和	176,951,151	140,874,224	120,814,873	139,382,662	127,929,365
	洋	150,368,563	145,806,576	145,758,612	137,305,213	134,213,377
雑 誌	和	44,564,589	28,973,497	29,905,699	26,693,490	29,672,000
	洋	206,188,373	181,584,484	202,852,908	212,768,243	226,295,329
電子媒体		5,375,750	19,140,986	46,847,076	7,153,266	9,112,215
マイクロ資料	和	17,736,970	27,794,889	14,759,782	14,759,782	8,264,670
	洋	28,502,869	39,689,393	70,258,979	70,258,979	69,776,366
その他の資料		6,504,024	62,994,489	52,878,702	39,685,501	27,977,194
外部データベース		34,408,360	29,796,968	31,130,446	23,921,897	39,281,192
合 計		670,600,649	*676,655,506	671,944,862	671,929,033	672,521,708
製 本 費		11,174,520	11,528,370	11,470,347	11,753,910	10,914,687

- 注1 「電子媒体」はCD-ROM、DVD-ROM等を含む。
 2 その他の資料には、追録、AV資料を含む。
 3 *印のうち、5,200,000円は工学部実験実習費から補填。

(4) その他関連統計等

① 図書館職員

a 図書館職員内訳 (平成17年度)

(単位：人)

	図 書 館	運 営 課	閲覧参考課	学術資料課	高槻図書室	合 計
専任職員	1 (0)	9 (3)	13 (6)	13 (7)	3 (1)	39 (17)
定時職員	-	2 (2)	6 (1)	10 (8)	9 (7)	27 (18)
合 計	1 (0)	11 (5)	19 (7)	23 (15)	12 (8)	66 (35)

注 () は女子の人数で内数を示す。

b 図書館職員数5年間の推移

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
専任職員 (人 数)	41 (23)	39 (21)	38 (20)	38 (19)	39 (17)
定時職員 (総勤務時間)	26,420	16,614	19,164	15,266	19,377
備 考	閲覧サービス部門のアウトソーシングは、平成12年度に開始した夜間、日・祝日に加えて、昼間部にも拡大。	相互利用、収集整理部門のアウトソーシングを拡大。	学術資料課業務に、「派遣職員」2名を採用。	学術資料課業務に、「派遣職員」2名を採用。	運営課業務に1名、学術資料課業務に3名、計4名の「派遣職員」を採用。

- 注1 定時職員は各人の勤務時間数が異なり、人数での比較が困難なため総予算時間数を記載した。
 2 () 内は女子の人数で内数を示す。

② 10年間の展示会テーマと会期

年 度	展示のテーマと講演会の演題	会 期
平成8年度	春季特別 「中井藍江とその周辺の画家たち」	平成8年4月1日～5月19日
	常設展 「図書館蔵書紹介(1)『ヴァティカン図書館蔵本複製版』」	平成8年7月1日～9月30日
	特別展示 美学会全国大会展「近世大坂画壇周辺」	平成8年10月11日～10月13日
	秋季特別 「スタインベックの広い世界」 記念講演会 「スタインベックの広い世界」	平成8年10月21日～11月22日 平成8年10月30日
	特別展示 新関西大学会館竣工記念 「関西大学図書館所蔵文書展 戦国武将の書状」 (於：新関西大学会館アートギャラリー)	平成8年10月28日～12月20日
	常設展 「図書館蔵書紹介(2)『古筆・手鑑』」	平成8年12月9日～9年1月17日
平成9年度	春季展 「ちりめん本—外国語に訳されたおとぎばなし—」	平成9年4月1日～5月30日
	特別展示 関西大学図書館特別展「北條秀司回顧展」 (於：新関西大学会館アートギャラリー)	平成9年5月6日～6月30日
	学外展示 「大坂の書と画と本—関西大学図書館所蔵—」 (於：京阪百貨店 守口店 ギャラリー・オブ・アーツ・アンド・サイエンス)	平成9年5月30日～6月11日
	夏季展 「図書館蔵書紹介(3)『大阪文芸資料作家特集—その1』」	平成9年6月16日～7月25日
	秋季特別 「王朝物語の展開」 記念講演会 「王朝物語の本一写本、古活字本、板本一」	平成9年10月20日～11月22日 平成9年11月13日
	冬季展 「図書館蔵書紹介(4)『大阪文芸資料作家特集—その2』」	平成9年12月8日～10年1月17日
平成10年度	春季展 「私家版—三大美書を中心に—」	平成10年4月1日～5月30日
	特別展示 「絵入り本の系譜」 (於：新関西大学会館アートギャラリー)	平成10年4月1日～5月30日
	夏季展 「マザーグース」	平成10年6月8日～7月31日
	秋季展 「いしひさいち展」 (於：新関西大学会館アートギャラリー)	平成10年10月12日～11月7日
	冬季特別 「王朝和歌の世界」 記念講演会 「王朝和歌の世界—写本の魅力—」	平成10年11月11日～12月19日 平成10年11月17日
平成11年度	春季特別 「聖書コレクション」	平成11年4月1日～5月22日
	夏季展 「大阪の雑誌創刊号 明治期」	平成11年6月14日～7月30日
	秋季特別 「作家の自筆展—上方文藝玉手箱—」 記念講演会 「三島由紀夫初期作品の問題—川端康成との往復書簡を契機として—」	平成11年10月4日～11月13日 平成11年10月25日
	冬季展 「この国の字書と辞書」	平成11年12月6日～12年1月15日
平成12年度	春季特別 「本草への招待—本草書とその周辺—」	平成12年4月1日～6月30日
	秋季特別 「生誕70周年記念 開高健展」 記念講演会 対談「開高健を語る」	平成12年10月4日～10月16日 平成12年11月18日
平成13年度	春季特別 「中村幸彦先生を偲んで」	平成13年4月1日～5月20日
	秋季特別 「伊勢物語—注釈と享受の世界—」 記念講演会 「中世の『伊勢物語』 享受—関大図書館本を中心に—」	平成13年11月7日～12月15日 平成13年11月27日
平成14年度	春季特別 「文字遺産集成—文字の出現から書物へ—」	平成14年4月1日～5月19日
	秋季特別 「英国近代女性作家展—ブルーストッキングからオースティン、 ブロンテの時代へ—」 記念講演 「イギリス・フェミニズムの胎動—〈ブルースト ッキング〉の女性たちを中心に—」	平成14年11月7日～12月15日 平成14年11月29日
平成15年度	春季特別 「大阪文藝 長沖一展」	平成15年4月1日～5月18日
	秋季特別 「江戸・明治初期の古書展—庶民の生活の中の占い—」 記念講演会 「今でも使われている運勢暦と大雑書の中の占い—その仕組 みを知っていますか—」	平成15年11月6日～12月13日 平成15年11月29日
平成16年度	春季特別 「ローマ法の展開」	平成16年4月1日～5月5日
	秋季特別 「〈新〉生田文庫の能楽資料」 記念講演会 対談「生田秀・耕一を語る—小鼓のはなし—」	平成16年11月15日～12月18日 平成16年11月30日
	臨 時 「陳舜臣展」 「関西大学経済学部・商学部創設100年記念展示」	平成16年5月10日～5月16日 平成16年10月12日～10月23日
平成17年度	春季特別 「日本・明治期の新聞」	平成17年4月1日～5月15日
	秋季特別 「八代集の世界—古今・新古今を中心に—」 記念講演会 「本を写すことと切ること」	平成17年11月14日～12月17日 平成17年11月29日

注 展示会のうち場所を示していない場合は、総合図書館展示室において開催した。講演会はすべて総合図書館のホールで行っている。

③ 資料の出陳・放映（学外からの依頼分）

依頼機関	目的・展示会等の名称	会期・放映日	掲載・借用依頼資料
[出品] 伊丹市立美術館	「笑いの奇才・耳鳥齋！～近世大坂の戯画～」展	H17.4.9～5.22 (伊丹市立美術館)	耳鳥齋筆『別世界巻』[C2*721.8*M1*4] 耳鳥齋筆『福祿寿』[C2*721.8*M1*3]
[出品] 大阪歴史博物館	特別展「日英交流 大坂歌舞伎展－上方役者絵と都市文化」	H17.6.30～9.11 (イギリス会場) H17.10.1～11.23 (大阪会場) H17.12.1～ H18.1.20 (東京会場)	『許多脚色帖』第七帖 [C*774.4*A1*7] 『芝翫土産滑稽道中雲助噺』 [L22*913*172] 『花競芝翫噺』桜巻・梅巻 [*913.69*12*1-1/2] 『金橋樓璃寛像』 [LO2*774*50] 『忠臣連理の鉢植』 [*912.5*C2*1/2]
[出品] 財団法人柿衛文庫	特別展「西山宗因生誕400年記念 宗因から芭蕉へ」	H17.10.19～12.10 (柿衛文庫)	大坂天満宮奉納『賦御何連歌』 [L22*911*353]
[出品] パリ日本文化会館	「YOKAI ー日本の奇妙な精霊」	H17.10.26～ H18.1.28 (パリ日本文化会館)	耳鳥齋筆『別世界巻』 [C2*721.8*M1*4]
[出品] 大津市歴史博物館	企画展「大津絵の世界」	H18.3.4～4.16 (大津市歴史博物館)	森一鳳筆『鬼の念仏画』 (C2*721.6*M4*5-1/2) 近松門左衛門著『傾城反魂香』 [*911.7*C1*11(Y)] 『似我蜂物語』 (C*913.61*J684*1) 『逆櫓松飯梅ひらかな盛衰記』 [*911.7*B1*1A] 『大津ゑぶし落葉籠』 (*911.65*K8*29) 『近松一二月 傾城反魂香』 (LO2*Y*52*2)
[放映] KBS京都テレビ	「きらめき☆Story」(5分番組)	H17.6.3,12,17,26	安楽庵策著『醒睡笑』 [*913.69*A1*2-1/3]
[放映] NHK京都放送局	NHK教育テレビ「知るを楽しむ～なんでも好奇心～」 「京菓子を遊ぶ」	H17.11.9,16,23,30	『男重宝記』 [*918.5*KI467*5-17]

2 平成17年度

自己点検・評価委員会活動記録

今期2年間(平成16年度-平成17年度)の図書館自己点検・評価委員会活動のうち、平成17年度については下記のとおりである。

(1) 委員会の議題・議事

第1回：平成17年4月20日(水)

- ① 委員の交代について(委員の名簿は、69ページに掲載している)
- ② 平成17年度の図書館自己点検・評価の活動計画について
 - ・平成18年度大学基準協会相互評価・認証評価申請にかかる「関西大学自己点検・評価報告書」の関係箇所執筆について
 - ・平成17年度の図書館自己点検・評価委員会の活動について
- ③ 平成16年度図書館自己点検・評価の結果について(「自己点検・評価関係資料」データ編を報告書にとりまとめた)

第2回：平成17年5月18日(水)

- ① 平成16年度図書館自己点検・評価の結果について(図書委員会へ報告する件を了承)
- ② 当委員会の活動について(平成17年7月29日が提出期限の、大学基準協会相互評価・認証評価申請用図書館関係部分の原稿作成進捗状況について)

第3回：平成17年6月15日(水)

- ① 大学基準協会相互評価・認証評価申請用「関西大学自己点検・評価報告書」の粗原稿について
- ② その他(原稿提出までの日程確認について)

第4回：平成17年7月20日(水)

- ① 大学基準協会相互評価・認証評価申請用「関西大学自己点検・評価報告書」の原稿について(提出原稿にまとめる)
- ② 図書館自己点検・評価活動における今期視点の修正について(修正して、「図書館資料の有効利用」を視点と定めた)

第5回：平成17年10月19日(水)

- ① 大学基準協会相互評価・認証評価申請用「関西大学自己点検・評価報告書」原稿(図書館関係部分)のリライトについて
- ② その他(今後の日程について)

第6回：平成17年12月21日(水)

- ① 図書館自己点検・評価報告書の粗原稿について
- ② その他(大学基準協会相互評価・認証評価申請用の「大学基礎データ」の一部修正について)

第7回：平成18年2月15日(水)

- ① 図書館自己点検・評価報告書の修正稿について
- ② その他(大学の自己点検・評価委員会事項の報告)

第8回：平成18年3月15日(水)

- ① 図書館自己点検・評価報告書の確定稿について
- ② 報告事項(関西大学「学の実化」Vol.6 No.3 自己点検・評価報告書の完成稿について、大学基準協会へ提出後の予定について)

(2) 作業部会・事務局の会務

作業部会(平成6年11月、本委員会内に設置。部会委員の名簿は69ページに掲載)および事務局は、期間を通じ下記の事項を担当した。

- (1) 大学の委員会からの依頼にもとづく、大学基準協会相互評価・認証評価申請用の書館関係部分について点検・評価および「報告書」の原稿作成と精査
- (2) 図書館の委員会における活動計画の策定、点検・評価、およびその結果である「報告書」の作成と精査

今期後半の平成17年度における会務等の概略は、次のとおりである。

- ・平成18年度大学基準協会相互評価・認証評価申請にかかる「関西大学自己点検・評価報告書」の関係部分について、平成17年3月30日付大学の自己点検・評価委員会委員長から図書館の自己点検・評価委員会委員長宛に原稿の執筆依頼があった。同時に委員会ホームページ上で、「モデル原稿」と「執筆要領」が開陳された。▲原稿提出期限は7月29日。
- ・4月15日までに事務局は、平成16年度図書館活動における各種統計データを累積して、「図書館自己点検・評価について(自己点検・評価関係資料編)」案の原稿を作成。▲4月20日の委員会に原案を提示し、図書館内の関係部署と作業部会による精査。▲5月20日の委員会を経て、委員長(図書館長)から同日開催の図書委員会において報告

された。

- 4月、大学の委員会から依頼された原稿について、事務局は図書館の現状に関する資料および諸データ等を集集し、記述の要件である長所、問題点、改革・改善方策について調査しながら、粗原稿の執筆を開始した。▲5月、図書館の委員会委員会に執筆状況を報告。▲6月には粗原稿を委員会に提示した。作業部会はそれをうけて、点検と評価を加えながら原稿の精査と修正を行う。▲7月20日の委員会において「修正稿」を検討。▲出された意見等を踏まえて訂正のうえ、7月28日には確定稿にして大学の委員会へ提出した。▲8月、加除修正を必要とする箇所があって、改めて大学の委員会に「修正版」を届けた。
- 5月2日付学長秘書課より、大学基準協会相互評価・認証評価申請用「大学基礎データ」の作成依頼があった。基準協会指定の全47表のうち、図書館関係は表41、42、43で「図書、資料の所蔵数」「過去3年間の図書の受け入れ状況」「学生閲覧室（席数）等」の3表であった。▲図書館運営課並びに事務局によりデータを収集し、作表のうえ期限日の5月25日に提出した。
- 10月11日、各部門の委員会が既に提出していた相互評価・認証評価申請用「報告書」原稿について、大学の委員会委員長から意見が付され加筆修正の指示があった。各部門の委員会は、これにしたがい提出期限の11月18日までに「リライト」することになった。なお、図書館の委員会へのリライト要請は字句の訂正等軽微な指示であった。▲10月19日開催の図書館の委員会を経て、事務局および作業部会により加筆修正のうえ、期限日に「リライト」原稿を提出した。▲その後予定されていた「再リライト」について、図書館に対しては要請がなかったが、あらためて館内で精査したところ、電子ジャーナル等の数量に変動が生じていたため、平成18年1月、「大学基礎データ」(41表・43表)について訂正の届出をした。
- 11月15日、大学評価・学位授与機構からの求めにしたがい、大学の委員会より各部門の委員会に対

して「教育研究活動に関する刊行物調査」に関する依頼があった。▲事務局は該当する事項について指定フォームにより提出した。

- 図書館の自己点検・評価活動につき、7月20日に開催した図書館の委員会において、今期の視点を修正し「図書館資料の有効利用」とした。同視点にもとづいて、事務局から「記述構成の試案」を提示した。▲11月末までに、事務局は「記述構成」にしたがって報告書の「粗原稿」を作成し、12月21日開催の図書館の委員会に開陳した。▲平成18年1月末日まで、作業部会により査読と精査を行う。▲2月15日に開催の委員会において「修正稿」の検討があった。第7章に掲載する「委員からの意見・提言」について、活動中の随所で種々出たものおよび改めて提言があったものを取りまとめた。つづいて、3月15日の委員会ではそれを報告書Ⅰの「確定稿」とした。▲平成18年度4月上旬には、事務局によって平成17年度における図書館活動の各種統計データを収集し、報告書Ⅱの「自己点検・評価関係資料」を作成している。

3 平成17年度

図書館自己点検・評価委員会名簿

*印は作業部会委員を示す。

	氏名	備考
規程第1号委員*	田中 登	委員長 図書館長
規程第2号委員*	市原 憲厚	図書館次長
規程第3号委員	伏見 英俊	図書委員会委員 (文学部選出) 大学自己点検・ 評価委員会委員
	笹倉 淳史	図書委員会委員 (大学院選出)
	林 順一	図書委員会委員 (工学部選出)
規程第4号委員*	赤木 一夫	運営課 委員兼事務局
	渡部 晋太郎	閲覧参考課
	中村 幸弘	学術資料課

【事務局（運営課）】赤木一夫、船越一英

4 関西大学図書館

自己点検・評価委員会規程

制定 平成6年1月28日

(趣 旨)

第1条 この規程は関西大学図書館規程第6条第2項の規定に基づき、関西大学図書館自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(任 務)

第2条 委員会は、図書館における教育研究の支援活動及び管理運営の自己点検・評価の取り組みを行うため、次の事項を行う。

- (1) 自己点検・評価の方針の策定並びに点検項目の設定及び変更
- (2) データの収集、分析及び検討
- (3) 報告書の作成
- (4) その他自己点検・評価及び第三者評価に関する事項

(各機関の協力)

第3条 委員会は、前条第2号に規定するデータ収集のため、それに係わる各機関に対して協力を求めることができる。

(報 告)

第4条 委員会は、自己点検・評価の結果を図書委員会に報告するとともに、大学自己点検・評価委員会の求めに応じて報告を行う。

(構 成)

第5条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 図書館長
- (2) 図書館次長
- (3) 図書委員のうちから図書館長が指名する者若干名
- (4) 図書館事務組織における各課から各1名

(委員長等)

第6条 委員会に委員長を置き、図書館長をもって充てる。

- 2 委員長に事故あるときは、図書館次長がその職務を代行する。

(委員の任期)

第7条 第5条第3号及び4号に規定する委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

(運 営)

第8条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数をもって決する。

- 3 委員会は、必要に応じて、委員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事 務)

第9条 委員会の事務は、運営課が行う。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成13年10月1日から施行する。

附 則

1 この規程（改正）は、平成15年4月1日から施行する。

- 2 この規程（改正）施行後最初に第5条第3号及び第4号の規定により選出された委員の任期は、第7条第1項本文の規定にかかわらず平成16年3月31日までとする。